



LIVE
KIRISHIMA

霧島リノベーションまちづくり戦略会議2020
霧島リノベーションまちづくり推進ガイドライン

令和3年3月 霧島市

1市6町が合併して15年目となる令和2年度。

霧島市では「霧島を一緒につくりたい」を合言葉に、延べ7回の「霧島リノベーションまちづくり戦略会議」を開催し、市民8名の委員を中心として霧島市の強みや弱みを共有し、これからの霧島市の将来像や新しい暮らし方について語り合いました。

そして令和3年3月。

霧島市がこれから目指すべきビジョンとコンセプトとともに、4つの戦略と市民が欲しい暮らしを自ら叶えるためのプロジェクトを「霧島リノベーションまちづくり推進ガイドライン」として策定します。

このガイドラインは、
市民は霧島での新たな暮らしを実現するため
行政は市が抱える都市経営課題を解決するため
そして、5年後の霧島市をワクワクさせるために
「民」と「公」が一緒になって作成したものです。

これからの霧島での新しい暮らしは公民一緒につくる！

霧島市は今、その旗印として、このガイドラインを掲げます。

はじめに

霧島を一緒につくろう

減る人口、増える空き家・空き店舗、増えるマンション、低下する地価、衰退するコミュニティ。霧島市だけでなく、全国の都市で同じような現象が起こっている。

この状況を悲観的に捉えるか、チャンスと捉えるか、それは人それぞれだろう。

しかし、10年後の「あなた」にとって霧島での暮らしはどうなっているだろうか。

行きつけのお店、子どもが集まる公園、懐かしいあの味、いつもの街並み。想像する未来の霧島の暮らしは、少なからずより楽しく、より豊かなものであったはずだ。

このまちには、他のまちにはない魅力的な地域資源がたくさんある。しかもそれは、外から見れば羨ましく思うほどの量と質。この際一層のこと、ないものをねだるより、今あるものを見つけて活かすという、発想の転換を試みるのはどうだろうか。

霧島には がある。
今浮かんだ資源は、既にこのまちの兆しかもしれない。

今できることを、今ある でやってみる。

たとえその一歩が小さくても、その一歩はあなたが想像した未来の霧島に近づく、大きな一歩になる。
ほしい暮らしは自分でつくる！

さあ、霧島をワクワクさせよう！

はじめに

霧島市にとってのリノベーションまちづくりとは



デンセン
霧島

Kirishima
Gastronomy

豊かな食材

地域
(自然・歴史)



面白い人



LIVE
KIRISHIMA

遊休不動産

本市にとって実践的なまちづくり施策は合併後初めてであり、本事業はこれまで地方創生事業として取り組んできた「まちの魅力づくりに参画する人口を増やすシティプロモーション推進事業」や、「食の付加価値を高める霧島ガストロノミー推進事業」を発展的に引き継ぎ、更なる課題解決に向けて着手する事業です。

既にある霧島の「自然・歴史」と、これまで磨き上げてきた本市の「人」と「食」とを、「遊休不動産」という新たな資源とリミックスすることにより、地方でイノベーションを興すことを目的とします。

01 霧島の現状と課題

- 1 霧島の現状
- 2 霧島の本質的な都市経営課題

02 都市経営課題の挽回策

- 1 霧島の地域資源と価値
- 2 霧島の兆し
- 3 リノベーションまちづくり

03 霧島の未来

- 1 霧島の各エリアの将来像
- 2 将来像実現のためのコンセプト
- 3 未来の霧島のファンはどんな人か？

04 霧島を育てる成長戦略とプロジェクト

- 1 SWOTの洗い出し
- 2 SWOTから4つの戦略を描く
- 3 戦略に基づくプロジェクト

05 各役割と推進体制

- 1 実現に必要な不可欠な登場人物
- 2 登場人物の役割
- 3 民間主導・公民連携のまちづくり推進体制
- 4 スケジュール

■ 参考資料

- 霧島リノベーションまちづくり戦略会議について（全7回）
- 霧島の現状（人口推移など）

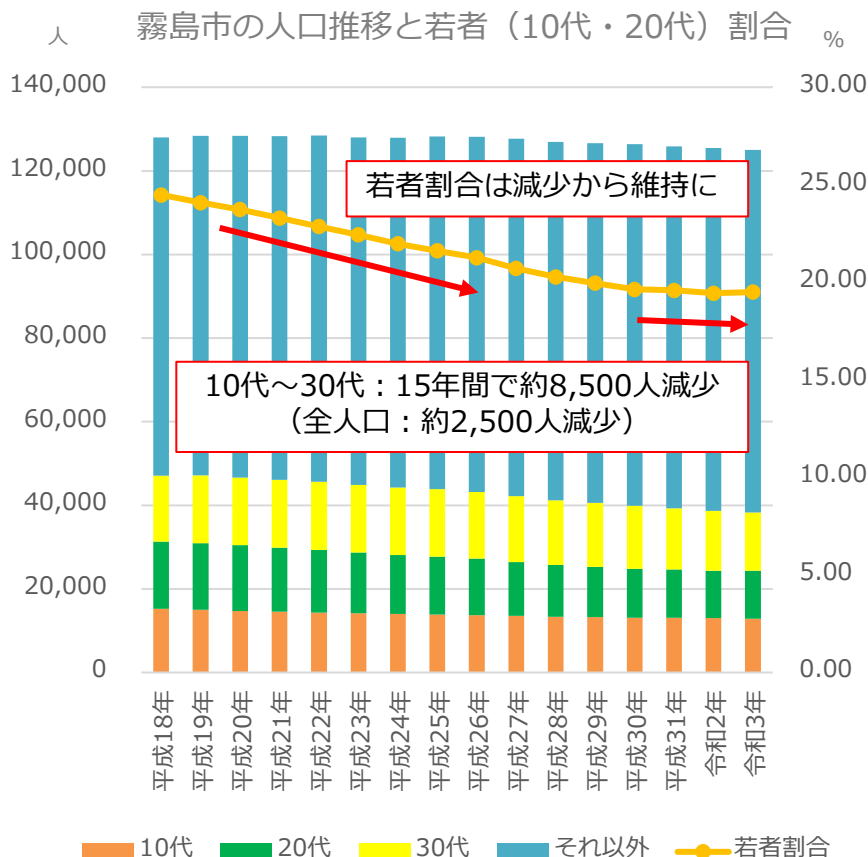
01

霧島の 現状と課題

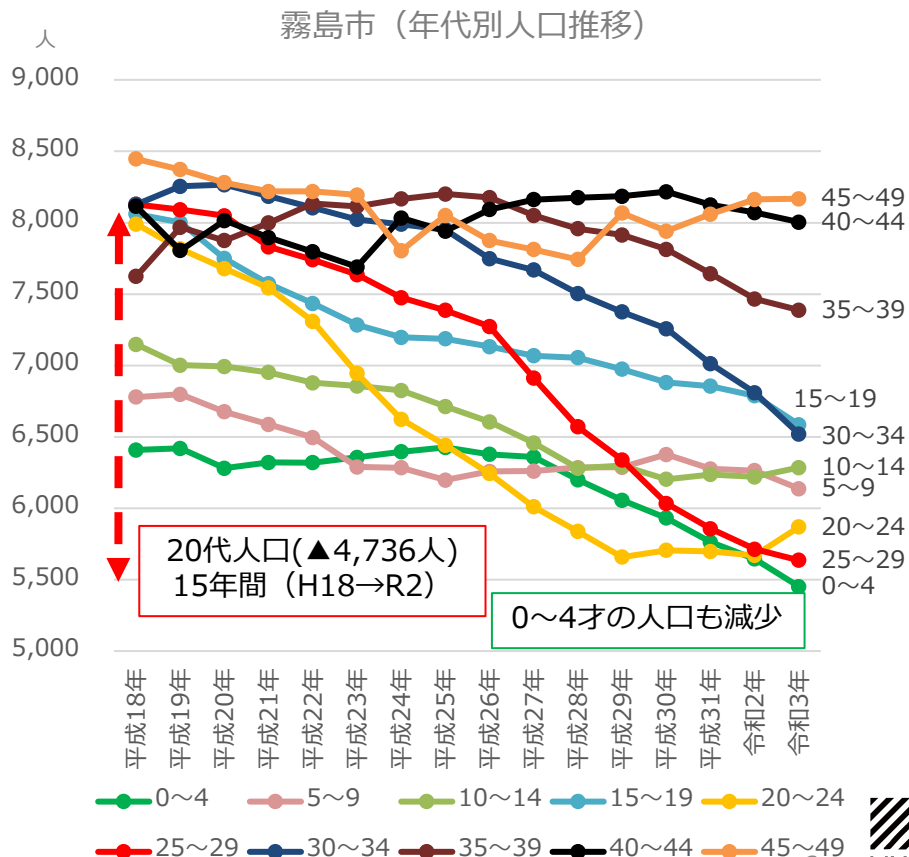
霧島の現状

20代の人口減少が著しく、それに伴い30代及び0~4才の人口も減少傾向

今後も20代~30代の人口が減り続けると、
子どもの数も減り続け、より一層の少子高齢化につながる



出典：住民基本台帳人口(各年1月1日現在)

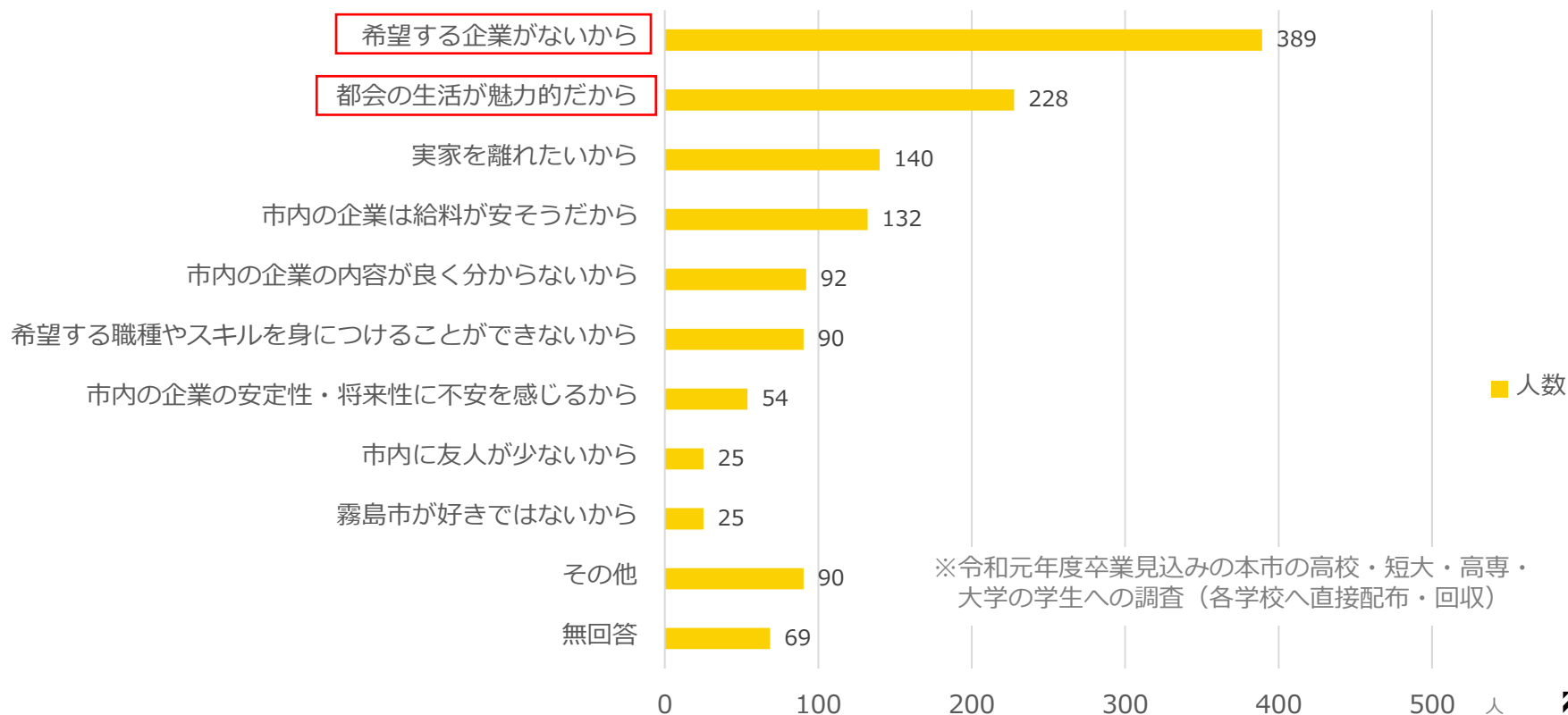


出典：住民基本台帳人口(各年1月1日現在)

希望する企業がない・都会の生活が魅力的といった理由により、

就職時に霧島市から離れてしまう若者が多い

市内に就職しない（したくない）理由（N = 869）



※令和元年度卒業見込みの本市の高校・短大・高専・大学の学生への調査（各学校へ直接配布・回収）

01

霧島の 現状と課題

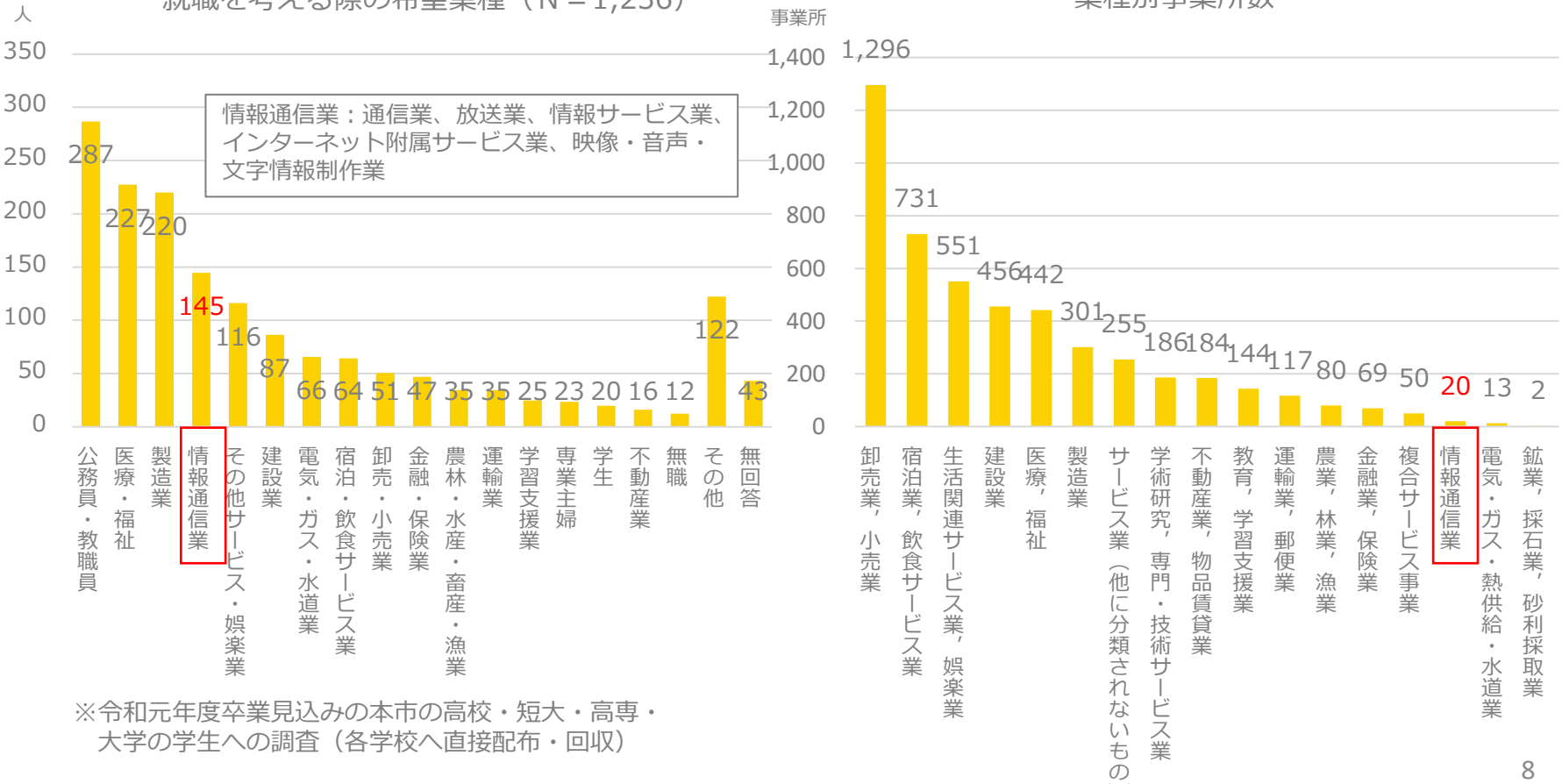
霧島の現状

多くの学生が就職を希望している情報通信業が市内に少なく、若者の地元就職の機会を失っている

若者の地元へ就職する機会の損失

就職を考える際の希望業種 (N = 1,236)

業種別事業所数



出典：霧島市ふるさと創生人口ビジョン(令和2年改訂版)

出典：霧島市内の事業所数 (RESAS:2016年)

01

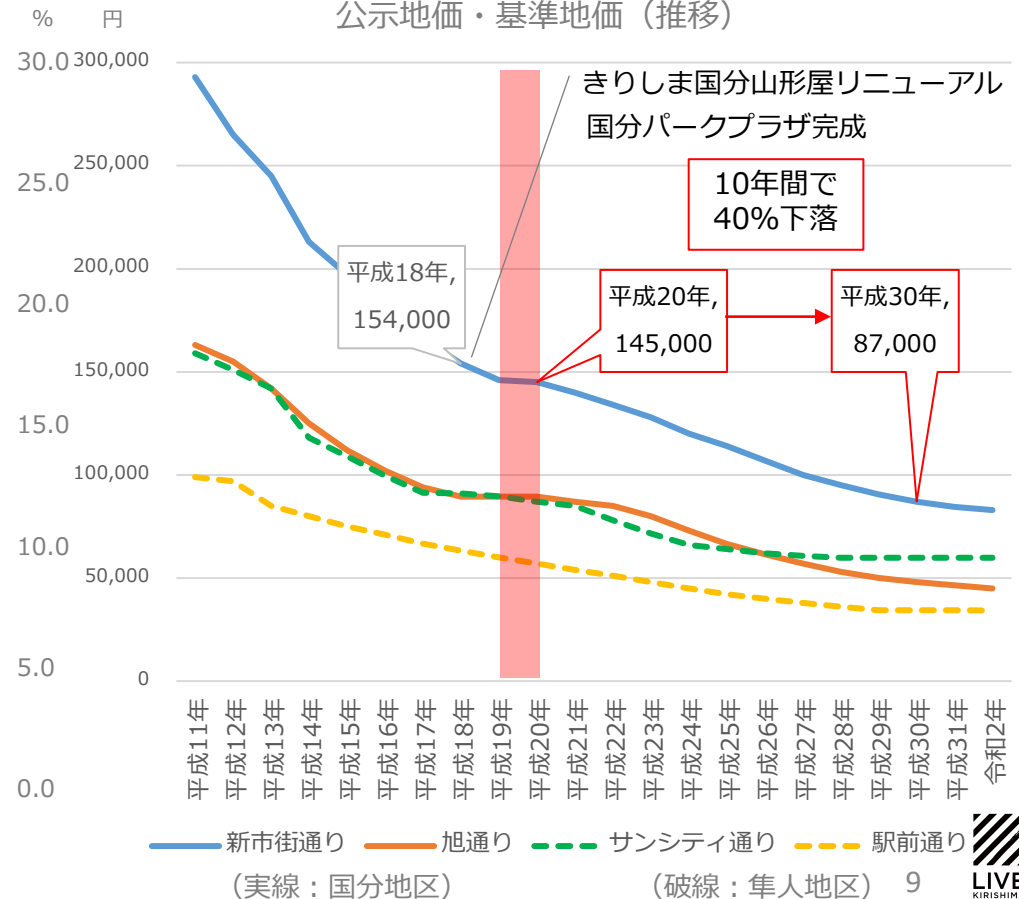
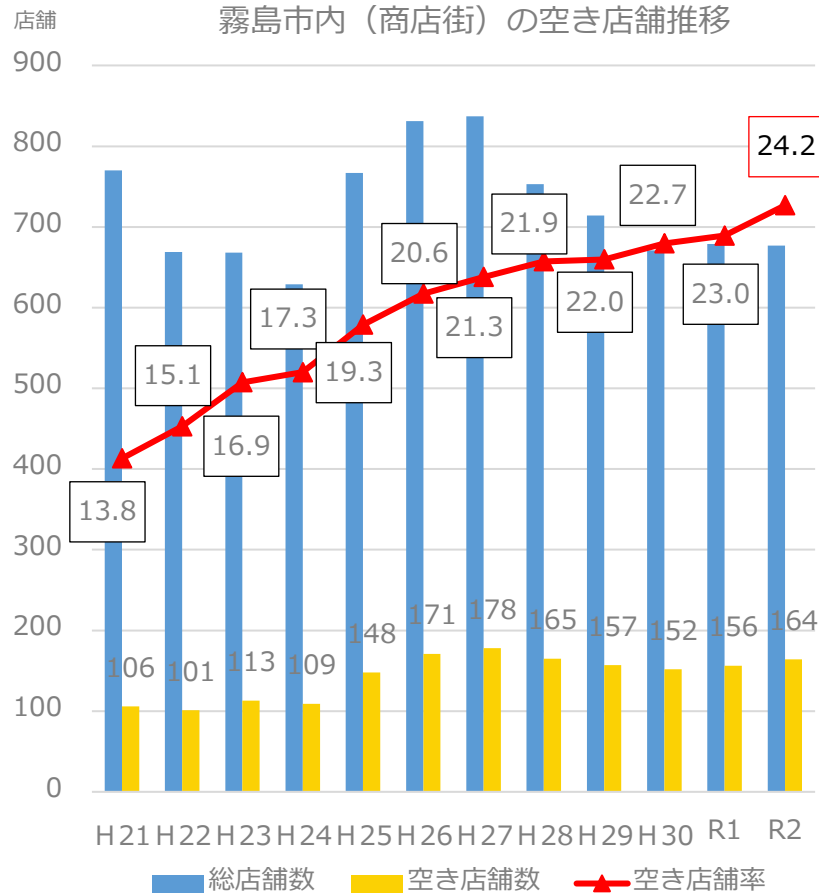
霧島の 現状と課題

霧島の現状

空き店舗率の上昇とともに、跡地に駐車場や空き地が散在するなど都市のスポンジ化が進行。

商業地における地価の最高値は10年前と比べ、40%下落。→商業地（稼ぐ場所）としての求心力の回復は必要不可欠。

不動産価値だけでなくエリアの価値も低下



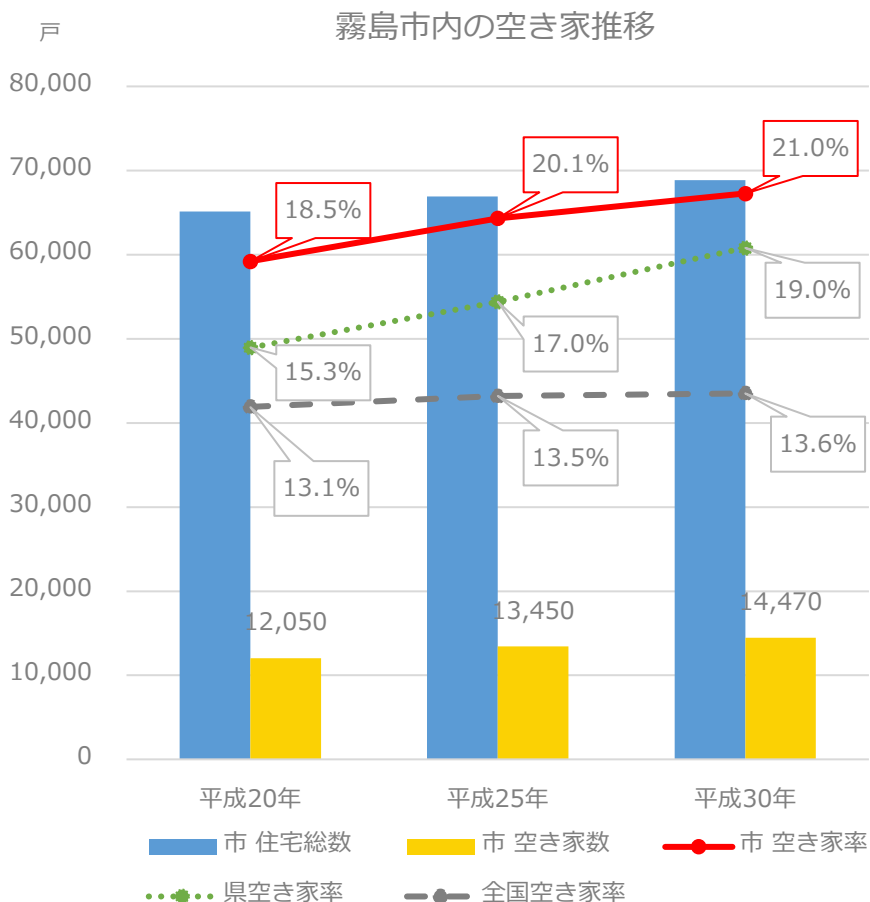
01

霧島の 現状と課題

霧島の現状

空き家の数は年々増えており、空き家率は全国平均と県平均と比べても高く、地区別で見ると中山間地域における
空き家棟数の割合が高い。→人口減少が進む中山間地域においてはマッチングを促す必要

健全空き家については流通を促す必要



出典：総務省「住宅・土地統計調査」

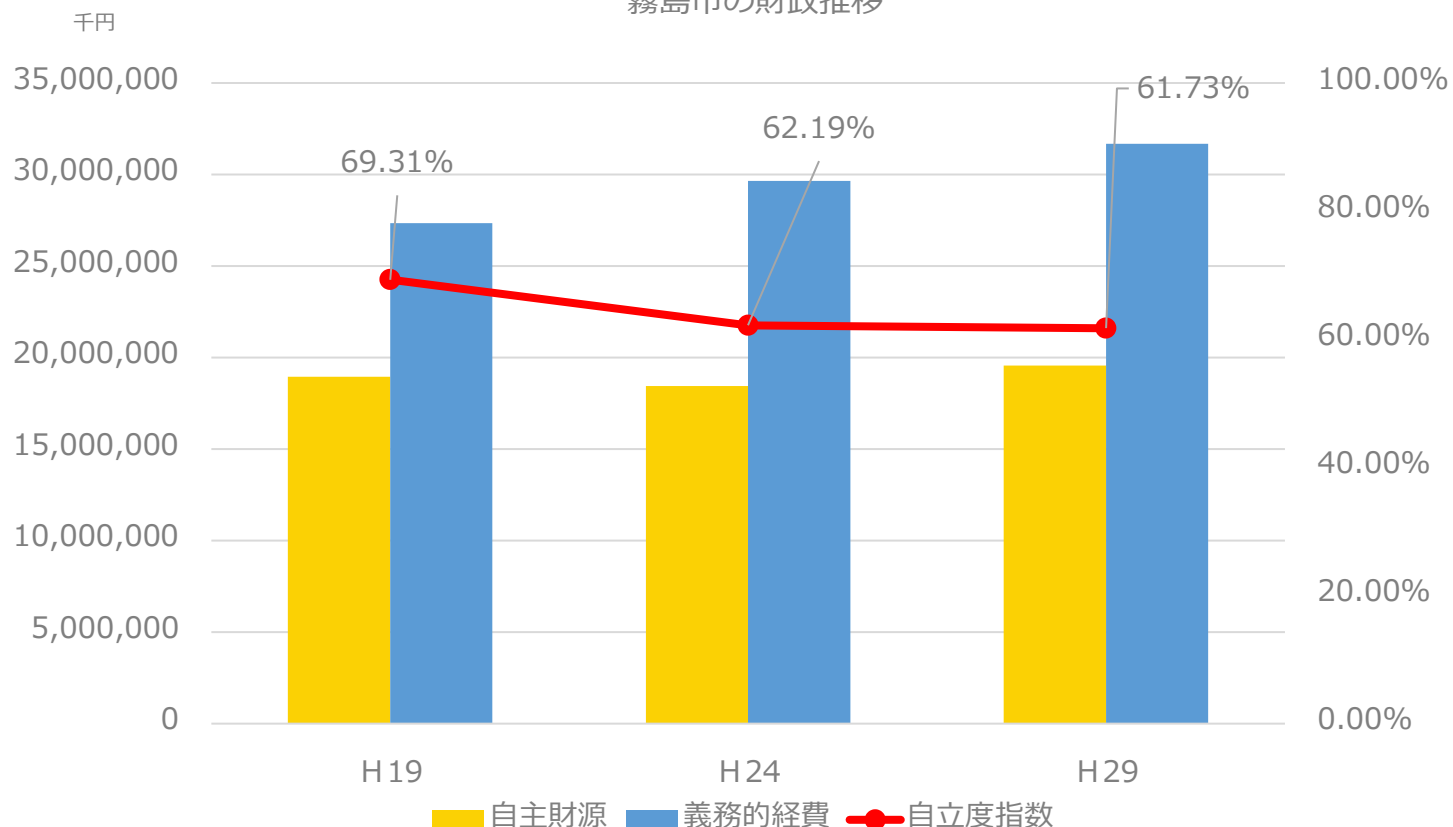


※管理不全の民間の全ての建築物（住宅以外を含む）を対象に、棟単位で市が独自で調査（平成24年度）そのため、国による住宅・土地統計調査数値とは異なります。

義務的経費が自主財源を上回っており、自主財源では賄い切れていない

少子高齢化により義務的経費はさらに膨らむ可能性

霧島市の財政推移



※自主財源とは・・・市民税や固定資産税といった市税や使用料など、国や県など他の機関の決定に関わらず、市が直接徴する収入
 ※義務的経費とは・・・市の経費のうち扶助費や人件費、公債費であり、支払うことが決定している経費

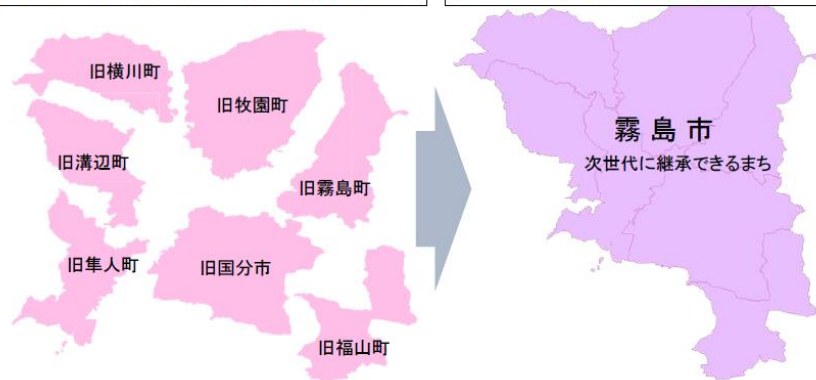
01

霧島の 現状と課題

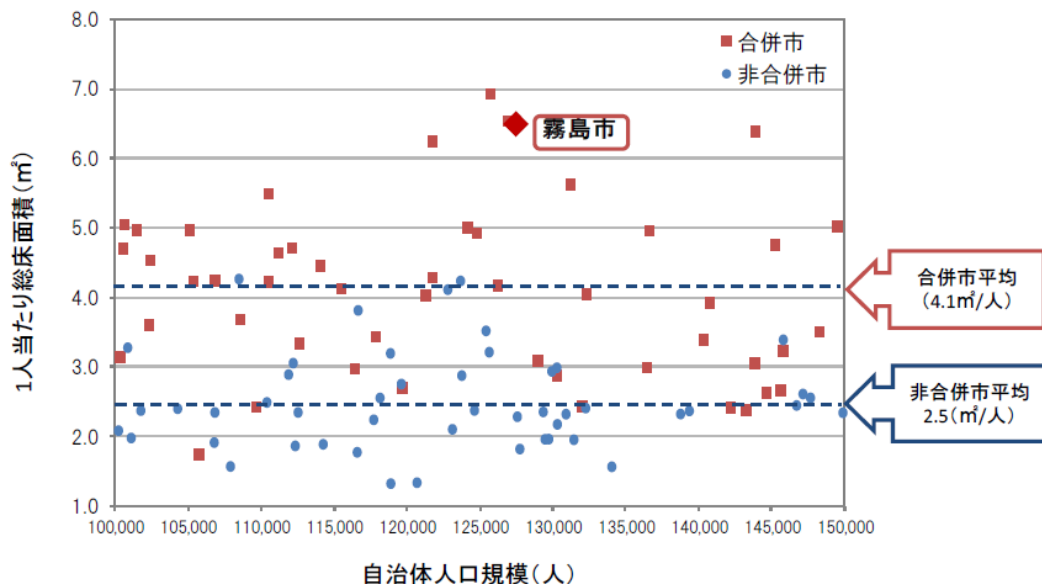
霧島の現状

【これまで】各市町が整備した施設を合併後も維持

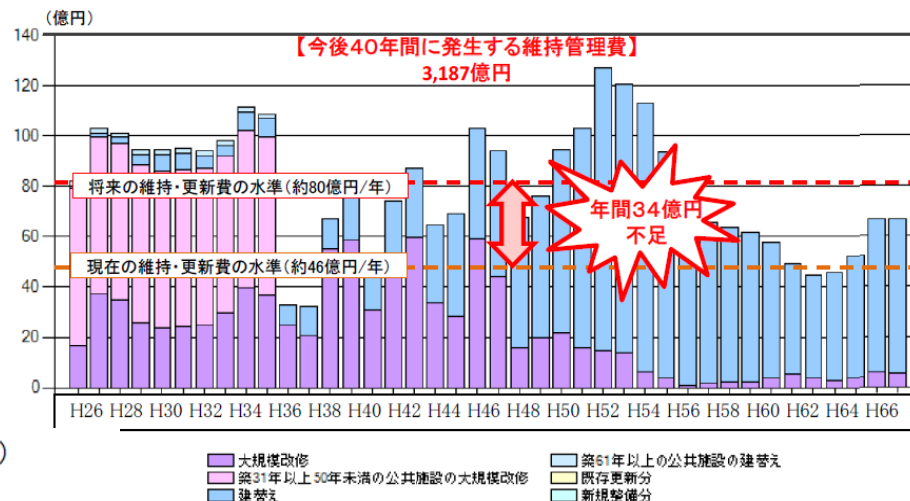
【今後】本市の将来像を見据え見直しを図る



図表6 人口規模が類似する団体との比較(1人あたり公共建築物床面積)



図表9 公共建築物のコスト試算結果



本市の人口一人当たりの公共施設の量は、人口規模が類似する団体と比べ大幅に上回っている。

今後、必要となる維持管理や大規模改修、建替え、譲渡等への対応については、民間活力の導入を含めた柔軟な発想による管理運営が求められている。しかしながら、

PPP/PFI、コンセッション
などの公民連携のノウハウがなく、受け皿となる民間事業者も不足している。

まちに漂う閉塞感
このままでは持続可能な都市経営は難しい

財源カットは市民サービスの低下を招く

20代人口

約**30%減**

(全国21.1%減)

H18→R2
(15年)

空き店舗率

24.2%

(鹿県平均16.6%)

R2時点

商業地地価

40%減

(国分市街地)

H20→H30
(10年)

空き家

2420戸

増加

H20→H30
(10年)

財政
自立度指数

0.61

自主財源／義務的経費

H29時点

公共建築物
維持更新費

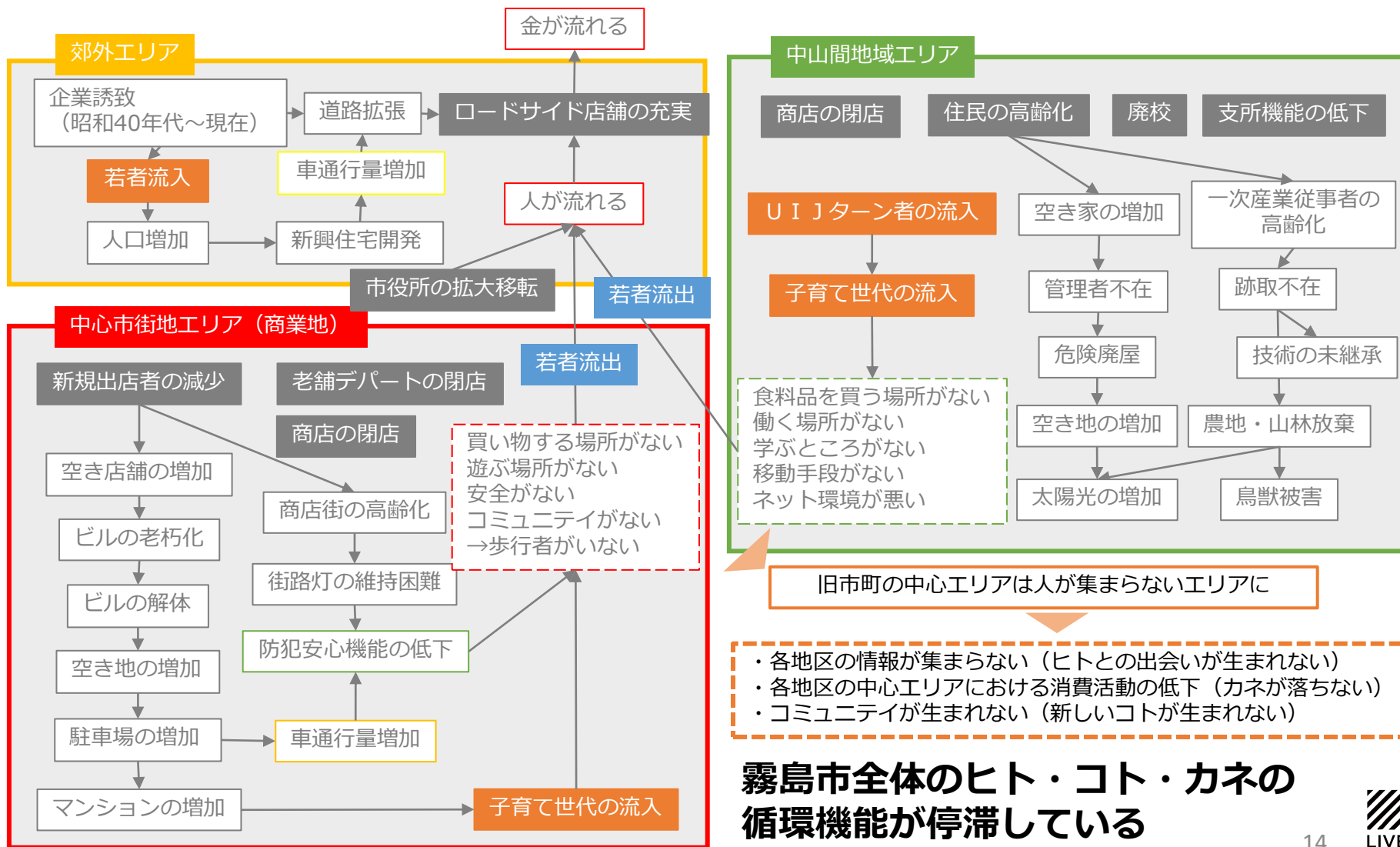
約34億円

毎年不足

01

霧島の現状と課題

霧島の本質的な都市経営課題



圧倒的な自然と都市が隣接した快適な住環境



車で30分程で海・山・川・温泉などの自然が楽しめる

何もないけどなんでもある（生活しやすい）

とにかく自然が豊かで住みやすい

子供を遊ばせられる自然スポットが多い

子育てしやすい所（自然の中で遊べる）

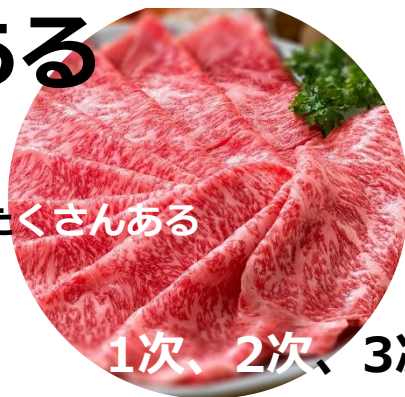
都市と自然のバランスが良い（共存している）

自然

都市

合併前の市町毎に 特産品や観光など 独自の特色がある

商品の「素材」になるものがたくさんある



1次、2次、3次産業全てある

高速道路や空港がありアクセスが便利



特色のあるエリアが多く点在



家族で安価に楽しめるかけ流しの温泉がある

大手企業・進出企業が多く立地



資源



霧島を面白くしたいと思う人がいる



まちを思う市民の存在（個性的）→自分の好きを形にしている

住みなれた地域で幸せに暮らし続けるための取り組みが広がっている

ポジティブ思考

霧島市を盛り上げよう！という人がいる

小さな兆しを見逃さず、
強みを活かし、弱みをポテンシャルに変える！

若者割合
(10-20代)

維持傾向

19.9%→19.5%
(H29→R3)

15-19才の転入増
20-24才の人口維持
県内でも高い若者率

ローカル
志向

東京一極の是正
ローカルへの注目
人口動態に変化

創業者数

増加傾向

15→22名/年
(H29→R1)

中山間地域を中心に
新たなお店が増える
比較的高い開業率

02

都市経営課題の挽回策

リノベーションまちづくり

本市の都市経営課題

就業・起業機会の損失

移住定住施策や子育て環境の整備が充実していても、就業・起業機会などが少なければ、本市で育った若者は地方から離れてしまう。

⇒若者やUIターン人材の働く場所の確保・創出

都市のスポンジ化

空き店舗や空き家、駐車場、空き地等の散在による地価の下落は、市税の減収を招くとともに、経済活動の機会損失や郊外への需要の流出につながる。

⇒まちなかの商業地(稼ぐ場所)やコミュニティ育成の場としての求心力の回復

公共施設の維持管理費の増大

市街地と中山間地域の人口動態の二極化による対応や人口減少・少子高齢化等を背景とする維持管理費の財源不足への対応などは、今後着実に進めていくべきである。

⇒民間活力の導入による施設運営の見直し

複合化する
都市経営課題の解決

**民間主導・公民連携のまちづくりにより、
都市経営課題を解決しながら、まちの魅力を向上させる**

- ・創業支援
- ・マッチング支援
- ・ファイナンス支援

熱狂的なファンによる
強力なコンテンツの創出

まちに増える
遊休不動産
(空家・空き店舗・空き地)
公共空間・公共施設

まちづくり団体等による
コミュニティ再生

- ・新たな公共を担うまちづくり団体育成
- ・公民連携の社会実験

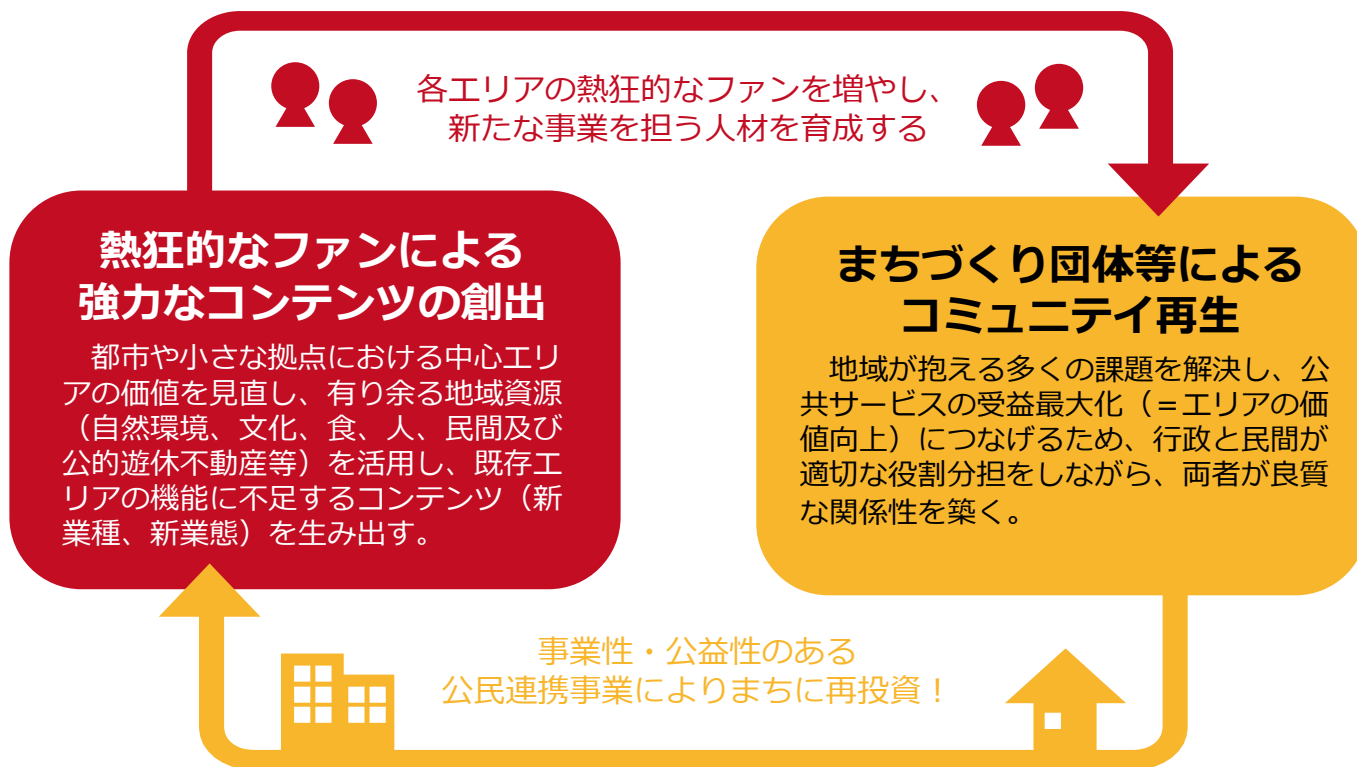
一定のエリアにおいて複数の遊休不動産再生を面的に展開

- ・創業、雇用の創出
- ・コミュニティの再生
- ・エリアの価値向上

まちのリノベーション



創業とまちづくりの好循環



各エリアの魅力や個性を磨く熱狂的なファン（＝人材）を増やし、新たなチャレンジが次々と生まれ、まちの日常が育つ生態系を構築

リノベーションまちづくりの4つの掟

Act Now

できることから始めよう

民間資金の活用

補助金に頼らない計画をつくろう

民間主導の公民連携

官民のパートナーシップを築こう

都市経営課題を解決

まちの課題解決につなげよう

Q これから霧島をどんなまちにしたいですか？



子ども達が県外に出た後も、最後はやっぱり愛する地元に戻ってきたいなと気持ちが芽生えるまち



自然を楽しむまち



発展しても緑のある自然を活かせるようにできたら。山も海も繋がっているという認識が少しでも生活の中で意識できるようなまち



楽しむことを知っている人達が自然と集まり、子ども達にワクワクを届ける人達がたくさんいるまち

エリア毎に役割分担ができていて、総じて霧島全体が魅力的なまち

沖縄と福岡を掛け合わせた日本一のワーケーション施設があるまち

企業人として自ら成功して、後に続く人の希望の星となり若い人達が帰ってきたくなる、チャレンジしたくなる環境があるまち

IT教育の土壌や楽器演奏者など音楽が活発でクリエイティブな人が溢れるまち



数年後のまちなかの風景

僕は子どもの頃から割と要領が良くて、受験も第一志望だった東京の大学に進むことができた。

サークルを立ち上げたり、バイトでリーダーを任せてもらったりして、自分で言うのもなんだけど周りからは一目置かれるようなタイプ。就職活動でもそこそこの企業から内定をもらった。

正直、満員電車は嫌だし、妥協した感はある。でも良い給料もらって安泰な生活を送るのが「勝ち組」ってやつなんだろう。

そんな僕の思い込みは意外すぎる場所で打ち砕かれることになる。

お盆にあわせて霧島の実家に帰省した僕は、地元の友達に連れられてとあるトークイベントに参加したんだ。

着いて早々驚いた。会場は野外。街角のちよつとした芝生広場が、夕暮れの中煌々といくつものライトで照らされていて、そこにはたくさんの人が集まっていた。登壇者は霧島で暮らす地元の人たち。

会社員仲間で音楽やアートのイベントを主催する男性。

東京と霧島で2拠点生活を送るWEBエンジニアの女性はどう見てもまだ20代。

毎朝釣りをしてから出勤し、休日は家族でアウトドアを楽しむ30代は、霧島産食材を海外で販売しているらしい…

目を輝かせながら自分とまちの未来を堂々と語る彼らを見て、僕は「悔しい」と思った。田舎だと決めつけてきた霧島に、こんな大人たちがいたなんて。

「…「勝ち組」の人生ってなんだ？
そこにいる自分は幸せなのか？」

子どもの頃に思い描いた将来の自分はどんな姿をしていたらうか。会場からの帰り道、ぼーっと夜空を見上げながら、子どもの頃の自分自身に思いを馳せる。

もしかしたら、心の奥底ですっと探し求めていた未来は、すぐ足元にあるのかもしれない。



数年後の海辺の風景

夫の転勤で県外から引っ越してきた我が家。

霧島には小さいながらもこだわりの詰まったお店があちらこちらにあって、週末はいろいろなイベントが開催されています。

「歩くのが楽しそうなまちだな」というのが霧島市への第一印象でした。

ある日、家族でふらっと立ち寄ったアートイベントで、私は一人のクリエイターさんと仲良くなりました。

その方は私と同じ2歳の子どもを育てるママさんで、海の近くで小さな雑貨店を営んでいるそうです。

初めてお店を訪ねた時、私は霧島の海の楽しさに魅了されました。

穏やかな海の向こうに桜島を眺められる砂浜。

貝殻を拾い集めたり、娘と思いきり遊んだり、疲れたら木陰で休憩したり。

海辺には他にもたくさんの方がいて思い思いに過ごしていました。

驚いたのは、ずっと外遊びが苦手だと思っていた娘が満面の笑顔で楽しんでいたこと。

帰宅後、拾った貝殻でネックレスを作ってあげたら大喜び！

それ以来、頻繁に海に出かけては貝殻アクセサリーをつくるようになりました。

「うちのお店で売ってみたい？」

そんな嬉しいお誘いをいただいて、

今度からお店に商品を置かせて

いただくことに。

親子で夢中になった霧島の海の

魅力を、アクセサリーを通して

たくさんの方に知ってもらえたら

どんなに楽しいだろう。

ワクワクとドキドキが入り混じっ

た私の小さな挑戦がはじまります。



数年後の山あいの風景

週末に差し迫った商談会に向けて、地域をあげた準備が大詰めを迎えている。アジアを中心に世界各国から参加する食品バイヤー達と霧島とをリモートで繋いで、霧島の地域や食材の魅力をプレゼンするオンライン商談会を開催するのだ。

僕の地元は霧島でも特に農業が盛んな山あいのまち。

代々続く農家で生まれ育った僕は、霧島の地域や食材のことを多くの人に知ってほしいと思いつつも、どうすればいいのかわからず悩んでいた。

転機になったのは「霧島ガストロノミー」の存在を知ったこと。

「美味しい霧島」をコンセプトに地域の魅力や食文化を世界に発信する取り組みだ。

「山と海、両方の霧島らしさを詰め込んで、世界に通用する霧島ブランドをつくりたい」

僕が掲げた目標を周りが応援してくれて、世代も職種も様々なプロジェクトチームが立ち上がったのは一年前。

市内各地の生産者グループが試作を繰り返しながら商品開発を行い、地域の魅力や商品に込めた想いをデザイナーが形にする。霧島産食材を海外へ販売する地元商社の若手メンバーとは、何度も一緒に海外へ足を運んだ。

七十歳を超えた世代から二十代まで。

それぞれの得意分野を持ち寄りながら走ってきた一年間。

「霧島の山間部から世界を相手に勝負する」

とてつもなく大きな目標のように感じていた未来の実現がもう目の前に迫ってきている。



CONCEPT (方向性・指針)



LIVE
KIRISHIMA

新しい暮らしを霧島から世界に発信

「地球に抱かれている」
このまちにいると時々そんな印象を受ける。

桜島と霧島山という2つの火山に挟まれ、他にも類を見ない圧倒的なスケールの自然に囲まれたまち。

目に映る風景は四季とともに刻々と変化し、一瞬たりとも見逃すことができない。

まさに自然が作り出すライブ感。

私たちは、この霧島という圧倒的なスケールの舞台で、今ある価値を最大源に活かし、霧島に暮らす躍動感あふれる人たちの手によって、新しいローカルライフスタイルの実現を目指します。

▼シンボルマークに込めた想い



→ 1市6町を象徴的に力強くシンボライズ。余白（可能性）を残し、ポテンシャルと課題を抱える霧島を自分たちの力で作り上げていく、「みんなでやる」という強い決意を大胆かつクールに表現。

4つの行動指針



LIVE
KIRISHIMA

Local Mind

地方を面白くしよう！

Interactive Mind

対話を大事にしよう！

Venture Mind

挑戦を楽しもう！

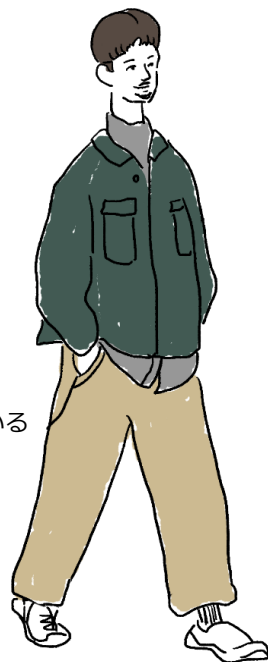
Enrich Your Mind

感性を豊かにしよう！

霧島で新しいローカルライフスタイルを送る人たち



- ・カフェめぐりが好き
- ・笑顔
- ・美食家（山の上でカップラーメンはあり）
- ・居酒屋よりバー
- ・コーヒー好き→自分で仕入れる
- ・世界に目が向いている（ローカルだけど）
- ・ゆとりがある
- ・話好き（社交性）
- ・パソコン一台で仕事ができる



- ・自分の軸を持っている
- ・自己肯定感が高い
- ・自分に合っているかをわかっている
- ・自分らしく生きたい
- ・自由
- ・好奇心旺盛
- ・センスがいい
- ・クリエイティブなことが好き
- ・チャレンジ好き



- ・子どもが森で遊ぶ（家族時間を大事にする）
- ・ご先祖様を大切にしている（自分のもだけど、その土地の）
- ・自分の住む土地を大事にする（地域や自然）
- ・何のためにwhyを持っている
- ・寛容である
- ・個人よりチーム→相乗効果を楽しめる人
- ・ポジティブ

- ・温泉が好き
- ・趣味が登山、キャンプ、写真
- ・PC片手に大自然のアクティビティ（天降川下り）
- ・好奇心旺盛
- ・エクストリーム出版社
- ・ローカル志向（チェーン店よりも）
- ・eバイクを借りて霧島各地の拠点へ
- ・田んぼや山の手入れ



SWOT分析※1～ポテンシャルと都市経営課題から抽出～

霧島市	内的要因	外的要因
ポジティブ要素	<p>Strengths : 強み 都市と自然が共存している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住みやすい ・ 子育てしやすい ・ 自然の中で遊べる ・ 質の高い暮らしが実現できる 	<p>Opportunities : 機会 流れはローカル志向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京一極集中の是正 ・ 地方に注目が集まっている ・ 若者割合が維持している
ネガティブ要素	<p>Weaknesses : 弱み 遊休不動産が多くあり、 エリアの魅力が低下している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まちなかの空き店舗の増加 ・ 中山間地域の空き家増加 ・ 不足する公共施設の維持管理費 	<p>Threats : 脅威 クリエイティブ産業※2振興の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光回線の遅れ ・ 就業希望の高い情報通信業が少ない ・ 文化、アート、音楽に触れる機会が少ない

※1 SWOT分析とは・・・「内」と「外」をバランスよくみる、「良い要因」と「悪い要因」をバランスよくみる事で、理想へのシナリオの精度をより高めることができます

※2 クリエイティブ産業・・・広告、建築、アートと骨董、工芸、デザイン、フィルムとビデオ、ゲーム、音楽、舞台芸術、出版、ソフトウェア、TVとラジオなど（英国1997年定義）

SWOTから4つの戦略を描く

SWOTから4つの戦略を描く = クロスSWOT分析

	Opportunities : 機会	Threats : 脅威
Strengths : 強み	<p>1 機会×強み (積極的戦略) 事業機会を本市の強みで最大限に活用する。強みを活かし機会を獲得するための戦略を考える</p>	<p>3 脅威×強み (差別化戦略) 他市には脅威でも本市の強みで脅威を機会に変える。強みを活かし脅威を除去するための戦略を立案する</p>
Weaknesses : 弱み	<p>2 機会×弱み (改善戦略) 事業機会を本市の弱みで取り逃さない。弱みを克服し機会に挑戦するための戦略を考える</p>	<p>4 脅威×弱み (イノベーション戦略) 本市の弱みと脅威で致命傷にしない、克服するようなアイデアを生むことが出来れば新たな価値を創造できる</p>

04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

SWOTから4つの戦略を描く

新しい暮らしが実現できる街に！ ～Local Mind!!～

- ・都市で住みやすさもあり、遊べる自然（アクティビティ）がある
- ・車で30分も行けば、山も海も川もある
- ・首都圏より便利ではないけど、生活には困らない

など、ローカル暮らしに憧れがある人にとっての霧島は、自然が近く、休みの日に家族と出かけたり、仲間と遊びに行く場所として非常に魅力的である。

そのため、都市と自然が共存していて「住みよい場所」×「遊べる場所」がセットになっていることを最大限に生かし、霧島でしか味わえないローカル暮らしを実践し、そのような暮らしを魅力的に感じる若い人（特に、人口減少が著しい20代から30代）から選ばれる、「憧れ」が生まれるまちにする。

流れはローカル志向（機会）

×

都市と自然が共存している（強み）

4つの行動指針



Local Mind
地方を面白くしよう！

Interactive Mind
対話を大事にしよう！

Venture Mind
挑戦を楽しもう！

Enrich Your Mind
感性を豊かにしよう！

	Opportunities : 機会 流れはローカル志向	Threats : 脅威 クリエイティブ産業 振興の遅れ
Strengths : 強み 都市と自然が共存している	機会×強み (積極的戦略)	脅威×強み (差別化戦略)
Weaknesses : 弱み 遊休不動産が多くあり、エリアの魅力が低下している	機会×弱み (改善戦略)	脅威×弱み (イノベーション戦略)

※積極的戦略（機会×強み）
事業機会を本市の強みで最大限に活用する。
強みを活かし機会を獲得するための戦略。

SWOTから4つの戦略を描く

クリエイティブ人材が集まる街に！
～Interactive Mind!!～

- ・数多くの遊休不動産があるが、活用できる人材が少ない
- ・情報通信業などを希望する学生も多いが、該当する地元企業が少なく地元就業の機会を失っている。

など、リソース（人材や企業など）が乏しく、求められているニーズに対応できていない。

そのため、遊休不動産を活用したサテライトオフィスやコワーキングスペースなどを手掛けるIT企業等を誘致し、クリエイティブ人材が集まる拠点をつくるなど、世代や属性を超えた出会いから「対話」が生まれるまちにする。

クリエイティブ産業振興の遅れ（脅威）

×

遊休不動産が多くあり、エリアの魅力が低下している（弱み）

4つの行動指針



Local Mind
地方を面白くしよう！

Interactive Mind
対話を大事にしよう！

Venture Mind
挑戦を楽しもう！

Enrich Your Mind
感性を豊かにしよう！

	Opportunities : 機会 流れはローカル志向	Threats : 脅威 クリエイティブ産業 振興の遅れ
Strengths : 強み 都市と自然が共存している	機会×強み (積極的戦略)	脅威×強み (差別化戦略)
Weaknesses : 弱み 遊休不動産が多くあり、 エリアの魅力が低下している	機会×弱み (改善戦略)	脅威×弱み (イノベーション 戦略)

※イノベーション戦略（機会×弱み）
本市の弱みと脅威で致命傷にしない、克服するようなアイディアを生むことが出来れば新たな価値を創造できる。33

SWOTから4つの戦略を描く

新たな一歩を踏み出せる街に！
～Venture Mind!!～

- ・ 中心市街地での空き店舗率の増加
- ・ 中山間地域での人口減少や空き家の増加
- ・ 不足する公共施設の維持管理費

など、他市町村に比べても大きな課題である遊休不動産の利活用については、所有者と利用者とのマッチングや、公共施設に関しては民間活力の導入が求められている。

一方、空き家再生や公民連携のノウハウがなかったりなど、遊休不動産を活用できる民間人材の発掘・育成や公民連携のまちづくりができずにいる。

そのため、ローカルの価値を再認識し、遊休化した不動産を活かしながら地域の新しい魅力やコミュニティを創出・発信するなど、若い世代の人材の発掘・育成を強化し、新たな「挑戦」が溢れるまちにする。

流れはローカル志向（機会）

×

遊休不動産が多くあり、エリアの魅力が
低下している（弱み）

4つの行動指針



Local Mind
地方を面白くしよう！

Interactive Mind
対話を大事にしよう！

Venture Mind
挑戦を楽しもう！

Enrich Your Mind
感性を豊かにしよう！

	Opportunities : 機会 流れはローカル志向	Threats : 脅威 クリエイティブ産業 振興の遅れ
Strengths : 強み 都市と自然が共存して いる	機会×強み (積極的戦略)	脅威×強み (差別化戦略)
Weaknesses : 弱み 遊休不動産が多くあり、 エリアの魅力が低下して いる	機会×弱み (改善戦略)	脅威×弱み (イノベーション戦 略)

※改善戦略（機会×強み）
事業機会を本市の弱みで取り逃さない。
弱みを克服し機会に挑戦するための戦略。

SWOTから4つの戦略を描く

アートや音楽があふれる街に！
～Enrich your Mind!!～

- ・自然が豊かで子どもを遊ばせるスポットが多い
- ・お店も多く生活していく上で必要なものは手に入る
- ・マンションも増えており、子育て世代も流入している（特に国分隼人）

など、都市と自然が程よく揃う霧島は子育てしやすい環境である。

一方、みやまコンセールや上野原縄文の森などの文化振興施設はあるものの、暮らしの中で気軽に文化や芸術に触れる機会が少ない。

そのため、子育て世代も楽しめる音楽やアートなどのイベントを通して、クリエイティブなコンテンツと触れる機会を創出することで、子育てしやすい場所だけでなく、+αの子ども達の「感性が豊かに育つ」まちにする。

クリエイティブ産業振興の遅れ（脅威）

×

都市と自然が共存している（強み）

4つの行動指針



Local Mind
地方を面白くしよう！

Interactive Mind
対話を大事にしよう！

Venture Mind
挑戦を楽しもう！

Enrich Your Mind
感性を豊かにしよう！

	Opportunities : 機会 流れはローカル志向	Threats : 脅威 クリエイティブ産業 振興の遅れ
Strengths : 強み 都市と自然が共存し ている	機会×強み (積極的戦略)	脅威×強み (差別化戦略)
Weaknesses : 弱み 遊休不動産が多くあり、 エリアの魅力が低下している	機会×弱み (改善戦略)	脅威×弱み (イノベーション戦略)

※差別化戦略（機会×強み）

他市には脅威でも本市の強みで脅威を機会に変える。
強みを活かし脅威を除去するための戦略。

SWOTから4つの戦略を描く

霧島市を育てる4つの成長戦略

	<p>Opportunities : 機会 流れはローカル志向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京一極集中の是正 ・地方に注目が集まっている ・若者割合が維持している 	<p>Threats : 脅威 クリエイティブ産業振興の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光回線の遅れ ・就業希望の高い情報通信業が少ない ・文化、アート、音楽に触れる機会が少ない
<p>Strengths : 強み 都市と自然が共存している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住みやすい ・子育てしやすい ・自然の中で遊べる ・質の高い暮らしが実現できる 	<p>新しい暮らしが 実現できる街に！ ～Local Mind!!～</p>	<p>アートや音楽が あふれる街に！ ～Enrich your Mind!!～</p>
<p>Weaknesses : 弱み 遊休不動産が多くあり、エリアの魅力が低下している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの空き店舗の増加 ・中山間地域の空き家増加 ・不足する公共施設の維持管理費 	<p>新たな一歩を 踏み出せる街に！ ～Venture Mind!!～</p>	<p>クリエイティブ人材が 集まる街に！ ～Interactive Mind!!～</p>

4つの成長戦略の位置付け

行政によるリノベーションスクール等の事業展開や民間による新たなファンを取り込むプロジェクトの方向性については、下記の4つの戦略を意識し、注力する。

新しい暮らしが実現できる街に！

～Local Mind!!～

都市と自然が共存していて「住みよい場所」×「遊べる場所」がセットになっていることを最大限に生かし、霧島でしか味わえないローカル暮らしを実践し、そのような暮らしを魅力的に感じる若い人（特に、人口減少が著しい20代から30代）から選ばれる、「憧れ」が生まれるまちにする。

アートや音楽があふれる街に！

～Enrich your Mind!!～

子育て世代も楽しめる音楽やアートなどのイベントを通して、クリエイティブなコンテンツと触れる機会を創出することで、子育てしやすい場所だけでなく、+αの子ども達の「感性が豊かに育つ」まちにする。

クリエイティブ人材が集まる街に！

～Interactive Mind!!～

遊休不動産を活用したサテライトオフィスやコワーキングスペースなどを手掛けるIT企業等を誘致し、クリエイティブ人材が集まる拠点をつくるなど、世代や属性を超えた出会いから「対話」が生まれるまちにする。

新たな一歩を踏み出せる街に！

～Venture Mind!!～

ローカルの価値を再認識し、遊休化した不動産を活かしながら地域の新しい魅力やコミュニティを創出・発信するなど、若い世代の人材の発掘・育成を強化し、新たな「挑戦」が溢れるまちにする。



LIVE
KIRISHIMA

04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

戦略に基づくプロジェクト

01 Obama Village

隼人町小浜地区にて、事務所や店舗等の複合施設を新築し、テナントとして提供したり、チャレンジショップとしてこれから新しくビジネスを始める人の応援を行います。

また近くに民泊や賃貸住宅も新たに設けることで「働く場所」「住む場所」「遊ぶ場所」を徒歩圏内で実現させる新しいライフスタイルを提案していきます。



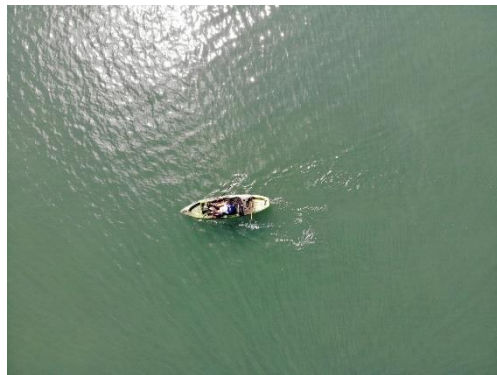
中山間地域のエリアリノベーションを実現することで、地方創生の新たなモデルケースを作り出します。
自分たちが魅力的なエリアを作ることで地元を離れた若者が希望を持って帰ってきたり、新しく移住や起業を志す人を増やして街づくりに貢献していきたい。

株式会社Obama Village 有村 健弘さん

隼人町小浜

中期～長期

□ケーションの良い小浜で、古民家の活用や新しい中山間地域の在り方を一緒に考えていきたい



02 MANABUN Programming School

小中学生の子どもや、プログラミングを仕事の選択肢としている高校生や大学生に向けて、プログラミングスクールを開催します。プログラミングが仕事の選択肢に入ることはもちろん、プログラミングを通じて学べるロジカルシンキングや問題解決のプロセス、ものづくりの発想力は人生の幅を広げます。



霧島に来てから首都圏の案件をリモートで行っていたり、霧島にいながらそういう仕事ができるのはすごくメリットがある職業だと思います。日本全体でIT業が盛り上がっている傾向に対して、遅れを感じる霧島で底上げをし、より自由に、豊かに生きることができ人を霧島に増やしたい。

株式会社CONAWORKS 大西 正将さん

市内全域

初期～中期

子ども向けのプログラミング教室をしながら、ITで働く人達が育つ土壌をつくりたい

MANABUN
PROGRAMMING SCHOOL



04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

戦略に基づくプロジェクト

03 BASE CAMP PROJECT

圧倒的なスケールの資源が霧島にはあると思います。その自然を最大限に活用したコーヒーやアウトドアに+αした防災の要素を含めたコーヒーショップを展開します。珈琲をツールにアウトドアアクティビティの楽しさを伝え、霧島の自然の素晴らしさを発信していきます。



霧島の自然が好きでいつか住みたいと思って移住しました。まだまだ表に出ていないポテンシャルがあると思うので、BASE CAMPを拠点に霧島の自然と人、人と人を繋ぎ、ワクワクする空間やコンテンツをつくりたい。

BACK FIELD COFFEE 奥野 貴大さん

牧園町

アウトドアも楽しめる珈琲店を通して、霧島の豊かな自然と人をつなげたい

初期～中期



04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

戦略に基づくプロジェクト

04 横川からはじまる霧島の新しい楽しみ方

横川Kitoという名前で築90年の古民家を改修しながら、カフェとゲストハウスとまちづくりの事業を行います。

横川町を中心に、霧島が持つたくさんの地域資源（特に未だ観光に活用されていないもの）を再発掘し、誰もが楽しめる形に編集し、霧島の新しい魅力として売り出していきます。



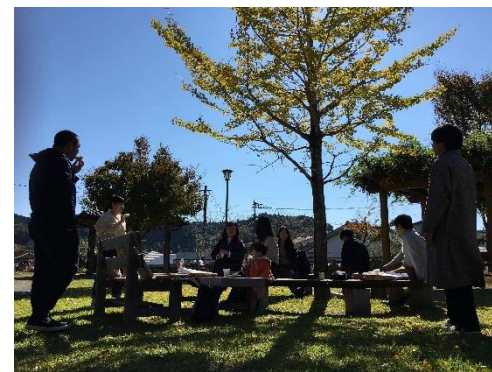
霧島＝温泉というイメージが強く、その他の地域資源が埋もれてしまっている現状がある。神話や自然環境、文化、産業遺産、鉄道、キャンプやカヌーなどのアウトドア・レジャーなど、定番観光以外の見どころ、楽しみ方を提案したい。

一般社団法人横川kito 白水 梨恵さん

横川町

空き家再生第一号として街の風景を変え、横川の情報発信するメディアとして機能していきたい

初期～中期



05 1市6町で繋がる合同イベント

子どもたちに何を残していくかと考えたときに人のつながりとして大人たちが遊んでいる姿を次の世代に見せていければ地元が楽しくなっていくんじゃないか。そのため、自然や建物の活用の仕方を多くの人と模索しながら、霧島の面白い所を発掘していきます。そして1市6町それぞれの色んな場所を活用する合同イベントを一緒に開催します。



1市6町それぞれの街が主体的に開催する事で、まずは身近な周りのヒトの繋がり、周りに在るモノ（自然、特色、文化、歴史など）の素晴らしさを改めて感じるきっかけとなれと思います。

それを一緒に開催することで、霧島市全体の繋がりを深めていきたい。

タグズハウス株式会社 徳永 功一郎さん

市内全域

初期～中期

特別な人だけではなく誰とでも繋がれて、霧島って人が温かいねって感じることができる街にしたい



04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

戦略に基づくプロジェクト

06 co minka.

空き家や古材など眠っている財産を利用して、大人も子どもも楽しめる空間を作ります。野菜を育てるベジベッドというプランターを置いて子ども達と収穫をしたり、民泊ができたり、お金をかけずに低予算で実現したい。そして、これがモデル事例となり霧島中に広がるのが目標です。



霧島って何かおもしろそう！ということを発信することで市外の人にたくさん興味を持ってもらい、面白い人たちを呼び込みたい。大人ももちろん楽しむが、子どもたちの世代のためにもわくわくするような環境を作りたい。

日永田 剛さん

市内全域

中期～長期

みんなが利用できて持続可能でクリエイティブな場所
「Co-minka. (公民館×古民家)」をつくりたい



04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

戦略に基づくプロジェクト

07 good place

霧島町で母屋を改装して、産品加工や農産物の販売、カフェも併設したプロジェクトを進めています。そこで、大豆を使った味噌や醤油の製造や料理を体験したり、農作業を体験する場所にしたい。農業をしながら山間部の小さいコミュニティを回しつつ、学びや食、文化を発信する場所をつくりたい。



農業を通じて今の景色や環境を守りつつ、世代を超えたつながりや市街地と中山間地域とのつながりも考えていきたい。唯一無二の場所とし、これからの農業風景を残し紡ぎ、立ち寄りたい場所にしたい。

マルマメン工房 増田 泰博さん

霧島町

初期

山も海もつながっているという認識が生活の中に意識できるようなまちにしていきたい



04

霧島を育てる 成長戦略と プロジェクト

戦略に基づくプロジェクト

08 3rd CO-WORKING SPACE <plus>

インキュベートであり、クリエイターとのマッチングが促進される施設を国分の中心市街地に作ります。また併設した飲食ブースでは昼間はカフェ、夜間はバーと、ビジネスの会話が弾む空間を提供します。



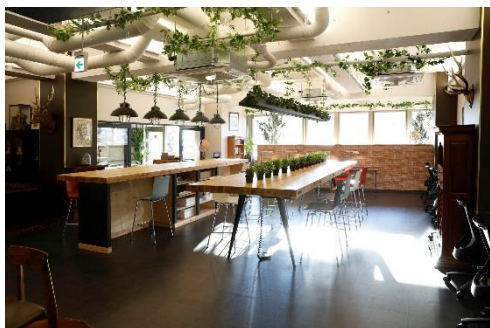
ECの運営を通して培った“ディレクション”と“マネジメント”を活かしてクリエイターが育つ環境作りをしていきたいです。また「街が面白くなる事業×クリエイターの技術」で、街の面白さを最大化させます。

株式会社PBOOKMARK 松本 一孝さん

国分

クリエイターの育成や新しいコミュニティづくりを通して、ローカルを面白くしていきたい

初期～中期



09 霧島リノベーションまちづくり実行協議会

リノベーションまちづくりの取り組みを広く普及啓発し、新たなプレイヤーを発掘するため、戦略的なプロモーションを積極的に行います。また道路空間や広場等の活用を先駆的に行いながら、新しい公共の楽しみ方を実践します。



まだまだ霧島に眠っている空き空間。その空間を行政と民間と一緒に手を組み、民間主導・公民連携の仕組みを構築しながら、霧島に新しい風景を生み出していきます。

霧島リノベーションまちづくり実行協議会
事務局

市内全域

初期～中期

戦略的なプロモーションを行い、新たなプレイヤーを巻き込みながら、公共空間の活用を促進します！

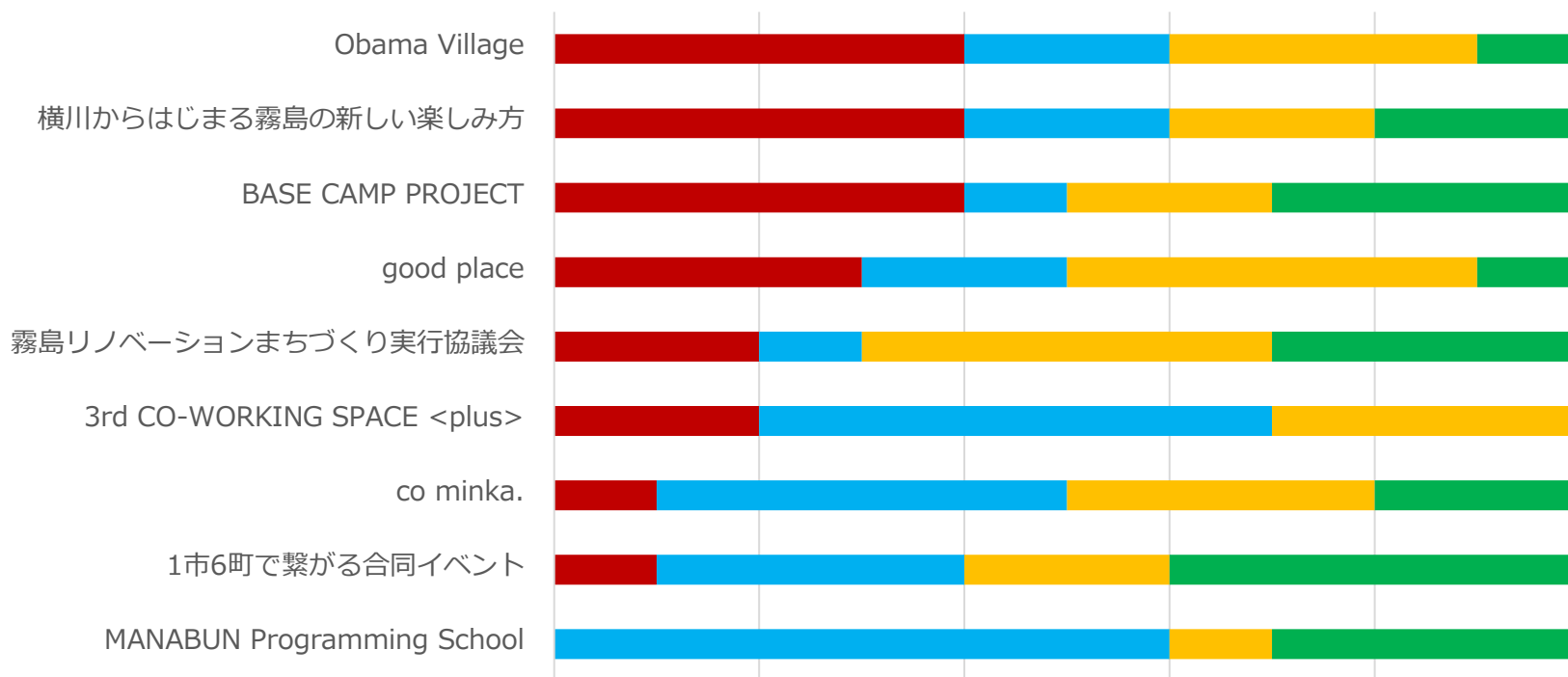


4つの成長戦略と9つのプロジェクト



L
I
V
E

- 新しい暮らしが実現できる街に！～Local Mind～
- クリエイティブ人材が集まる街に！～Interactive Mind～
- 新たな一歩を踏み出せる街に！～Venture Mind～
- アートや音楽があふれる街に！～Enrich your Mind～



05

役割と 推進体制

実現に必要不可欠な登場人物

ビジネスオーナー
(事業者市民)

地域資源を活かし、まちに既存エリアの機能に不足するコンテンツを小さく生み出す市民

家守会社
まちづくり会社

事業性と公共性のある公民連携事業により、まちをコーディネートしながらまちに再投資する会社

不動産
オーナー

自らの敷地だけでなくエリアの価値向上を目指すため、廉価な賃料で物件を提供するオーナー

霧島
リノベーション
まちづくり
実行協議会

リノベーションまちづくりの推進主体であり、創業人材の育成や公民連携の取組を促す公民連携組織

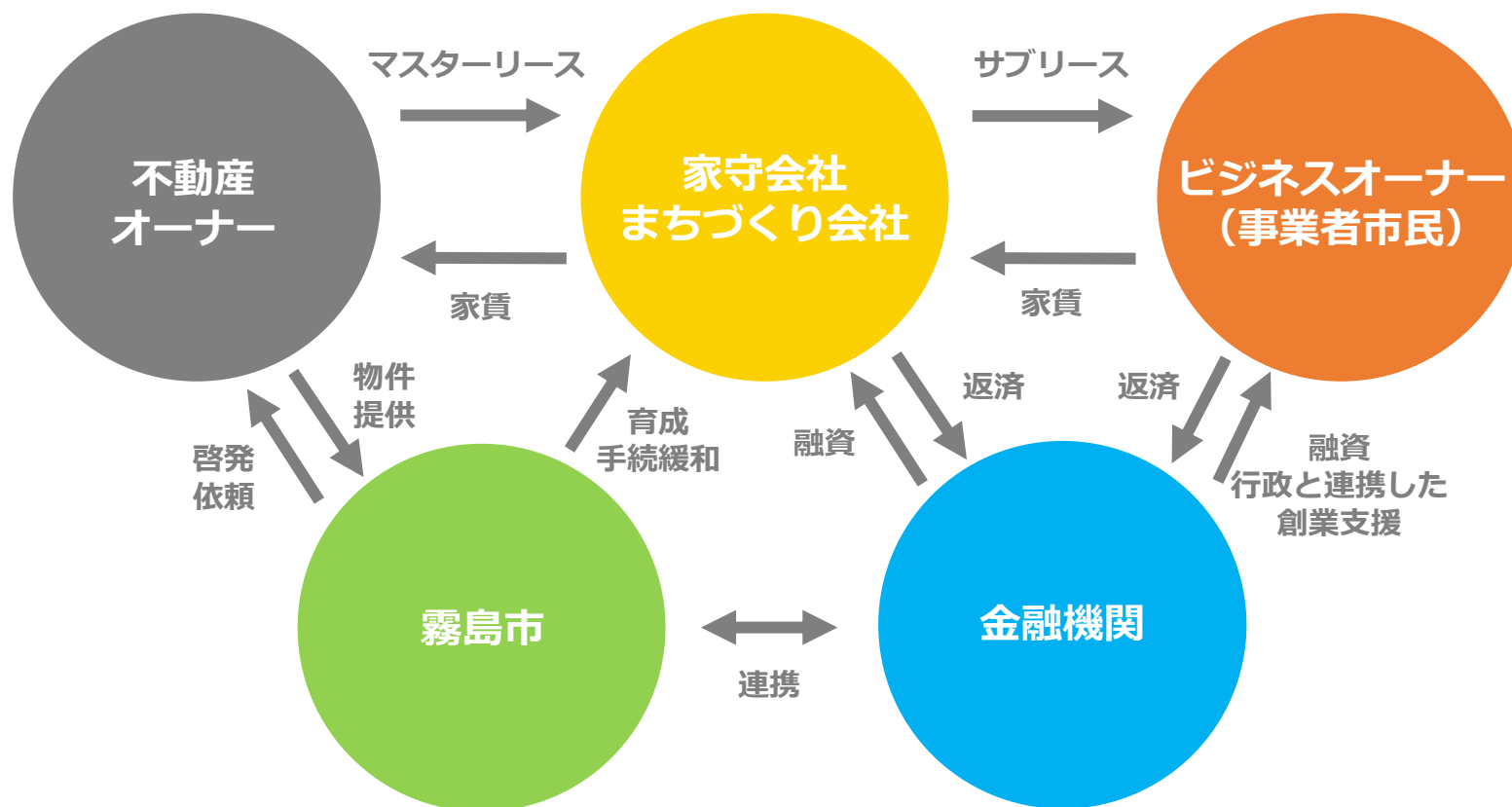
霧島市

庁内横断による官民分け隔てないフラットな場づくりや人材育成、ビジネス展開しやすい環境を整備

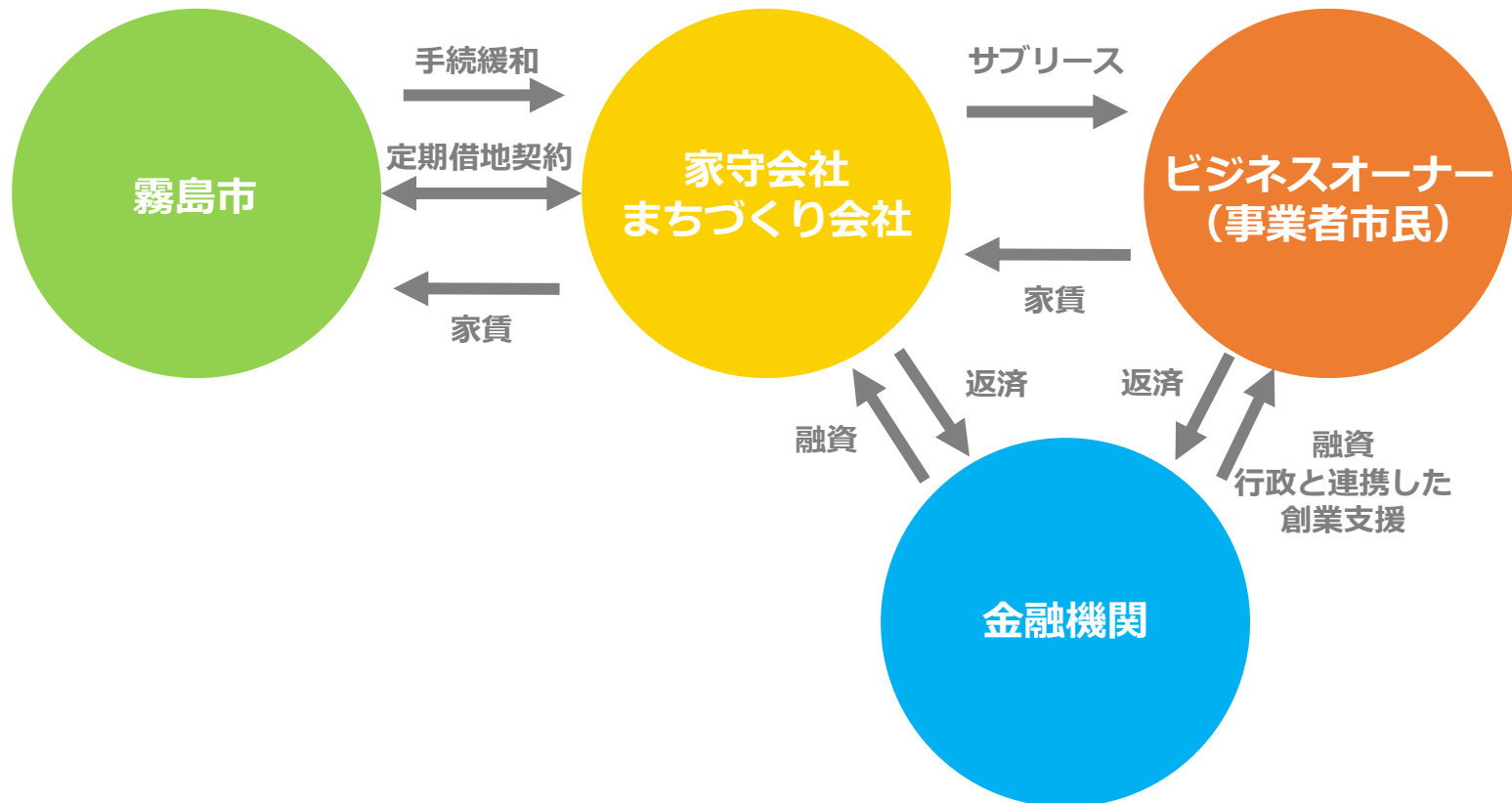
金融機関

行政と連携し、ビジネスオーナーのスタートアップ時における資金調達をスムーズに行う

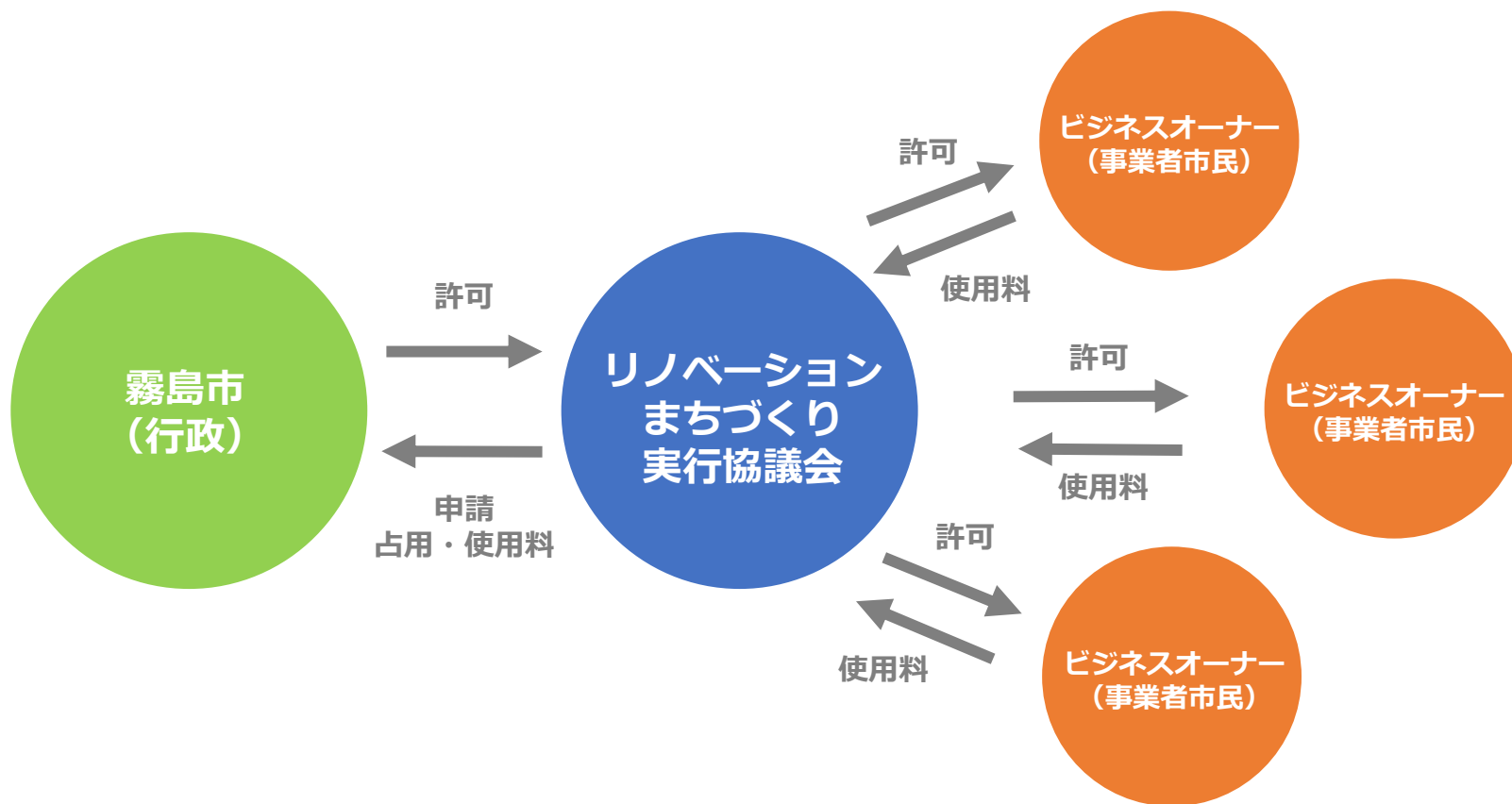
民間の遊休不動産の場合



公共施設の場合



公共空間（道路や広場等）の場合



05

役割と推進体制

民間主導・公民連携のまちづくり推進体制

民間主導・公民連携のまちづくりを側面支援

ビジョンの策定

- ・戦略会議の開催
- ・推進ガイドラインの策定

啓発・意識改革

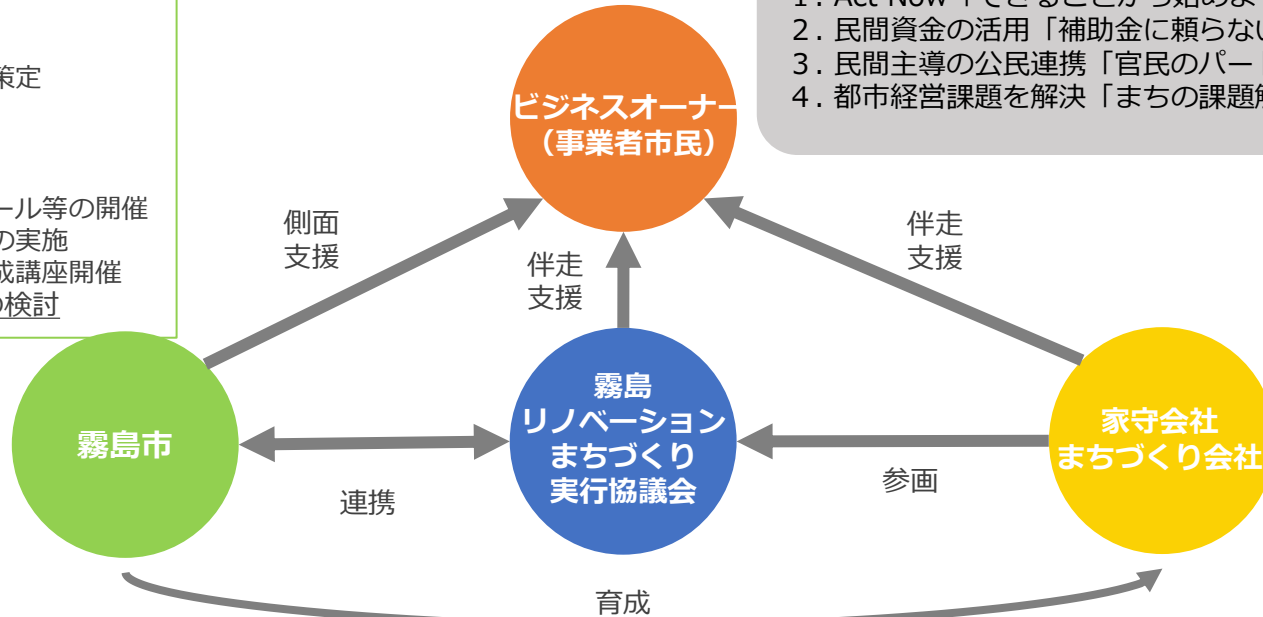
- ・各種セミナーの開催

人材発掘・育成

- ・リノベーションスクール等の開催
- ・創業支援プログラムの実施
- ・まちづくり団体の育成講座開催
- ファイナンス支援策の検討

民間主導・公民連携の4つのルール

1. Act Now「できることから始めよう」
2. 民間資金の活用「補助金に頼らない計画をつくろう」
3. 民間主導の公民連携「官民のパートナーシップを築こう」
4. 都市経営課題を解決「まちの課題解決につなげよう」



TF：タスクフォース

TF 1：商工振興課

TF 2：都市計画課

TF 3：地域政策課

TF 4：財産管理課

TF 5：建築指導課

等

ビジネスオーナーの事業を伴走支援

民間の実事業化支援

- ・公共空間活用
- ・屋台スタンド貸出
- ・空き店舗活用促進
- 情報発信・交流促進
- ・広報物の作成
- ・ネットワークの構築
- ・SNSの発信

民間主導のまちづくりを伴走支援

創業支援と
エリアマネジメント

- ・対話の創出
- ・マインドセット
- ・戦略（マーケティング）
- ・デザイン
- ・リノベーション
- ・不動産（転貸） 等

外部委員会

評価

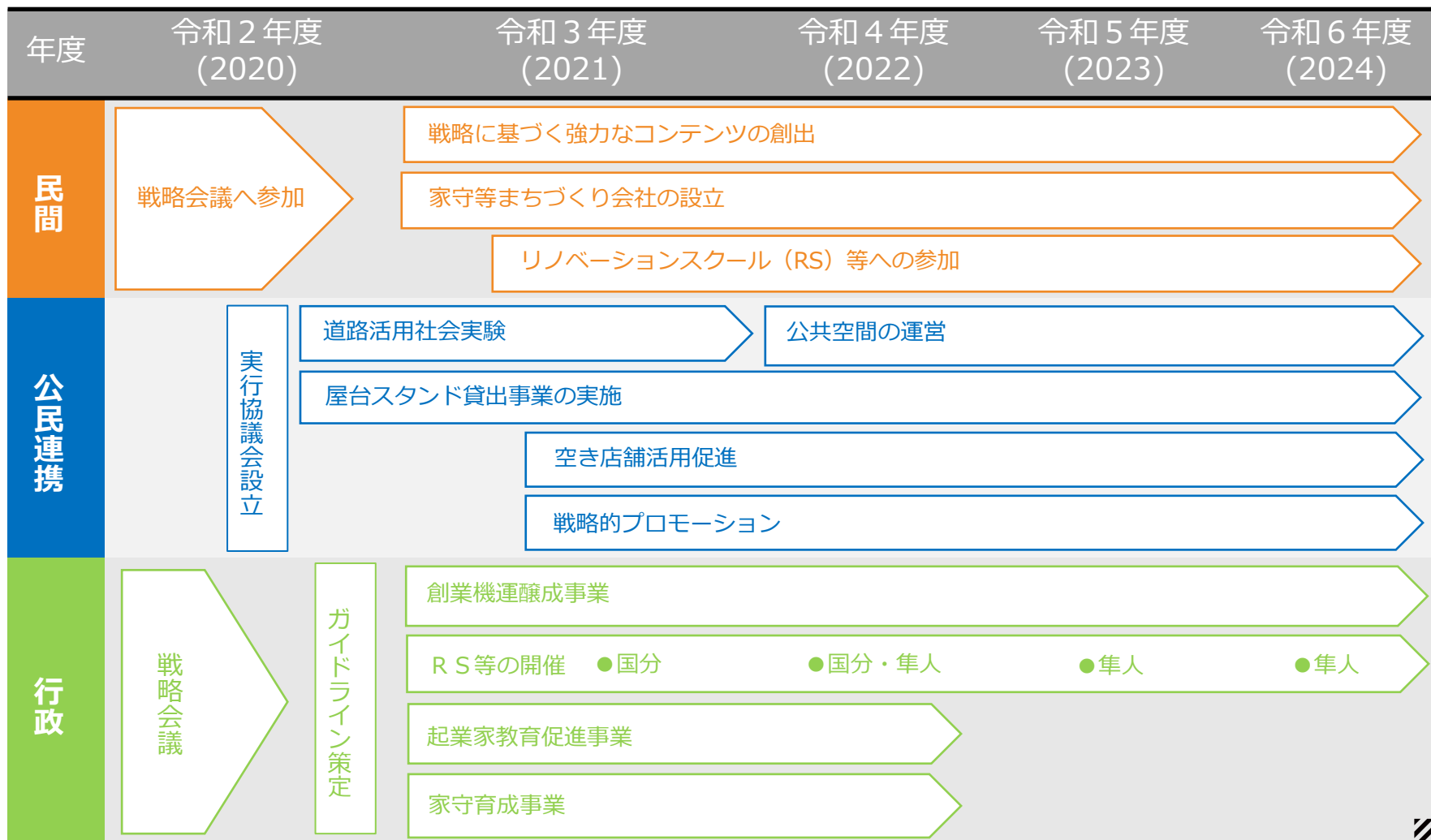
報告

総合計画・総合戦略

05

役割と 推進体制

スケジュール



○霧島リノベーションまちづくり戦略会議について
(全7回の概要)

〇霧島リノベーションまちづくり戦略会議について（全7回の概要）

本市の都市経営課題を明確にし、その解決に向けた進め方（プロセス）とともに、本市の将来像（ビジョン）を議論する場として、8名の委員を中心とした戦略会議を全7回開催しました。

委員紹介



(株)Obama Village
有村 健弘



(株)CONAWORKS
大西 正将



BACK FIELD COFFEE
奥野 貴大



(一社)横川kito
白水 梨恵



タグズハウス(株)
徳永 功一郎



会社員
日永田 剛



マルマメン工房
増田 泰博



(株)PBOOKMARK
松本 一孝

回	開催日時	テーマ	参加者
事前フォーラム	令和2年8月30日	委員を知り、仲を深めよう	16名
第1回	令和2年9月25日	なぜリノベーションまちづくりに取り組むのか	121名
第2回	令和2年10月25日	SDG s を学び、霧島の強みと弱みを知る	41名
第2.5回	令和2年11月29日	先進地（沼津市等）の取組みを知る	10名
第3回	令和2年12月6日	自身のプロジェクトを分析し民間と行政の役割を知ろう	20名
第3.5回	令和3年1月30日	未来の霧島の将来像や目指すべき方向性を探ろう	19名
第4回	令和3年2月21日	これからの霧島を一緒につくろう	102名

事前フォーラム「委員を知り、仲を深める」

これからリノベーションまちづくり戦略会議を始めるにあたって、委員同士がよく知り、仲間づくりを行うための時間。委員の霧島への想いやそれぞれがやりたいと思っているプロジェクトを対話を通して、深堀りを行いました。



霧島の特徴は？



有村委員

日々の暮らしに自然環境が寄り添っていて、そこから生れる住みやすさに居心地を感じるまち。普段の暮らしの中に温泉があり、それが特別ではなく、暮らしの中の一つになっているのが幸せ。かけ流しも凄い。自然の中で楽しむのが当たり前で、海で仲間とBBQとか。



奥野委員

表に出ていないポテンシャルがまだある。自然すぎても良いけど、手を加えればもっと面白い街になる。人とのつながりをたくさん持つことができ、面白い人が多い。この場に参加していない人もアイデアを外に発信できる機会があればさらに楽しくなる！



白水委員

地域毎に特色があって、それぞれで役割分担ができればもっと魅力的な街になると思う。地域ごとの魅力や強みを知るなど、共通理解があると価値が上がりそう。

霧島をどんな街にしたいか？



大西委員

自然が多く過ごしやすいことは、仕事をしていても理想的な環境なので、仕事をするにもアウトドアで行うようなまちにしたい。またITが学べる土壌を作って、クリエイティブな人材を増やしたい。



徳永委員

昔の日本のように住みやすく、どんな人とでも自分の街って人が温かいねと感じれる、人同士が繋がりがやすい街にしたい。そして子どもたちが県外に出たあとでも、地元が好きだからと言ってUターンが増える街にしたいなと思います。



日永田委員

同じベクトルの仲間が増える街になってほしい。楽しむことを知っている人たちが自然と集まり、ワクワクする人が増え、誇れる場所づくりをしていきたい。

第1回戦略会議「なぜリノベーションまちづくりに取り組むのか」

行政だけではなく、民間と一緒にまちづくりを行っていく。霧島市が一丸となって民間も行政も関係なくまちを育てていくためのスタートを切りました。

リノベーションまちづくりについて 講師：大島 芳彦 氏

空き家問題、空き家に限らず余白の問題があります。本当に問題なんですか？問題とは思っていないんじゃないか？実は空き家というのはワクワクするもの。空き家は活用を待っているんだ。「空き家は資源」だと思えば楽しくなってきます。リノベーションまちづくりとは、空間的資源のみならず潜在的にまちに存在する人的・文化的・環境的・歴史的資源を発掘・再編集して新たな地域的価値を創造する。リノベーションまちづくりという役所がやってくれるものじゃないか、与えてくれるじゃないかと。そういう時代ではもうないんです。人口が減少すれば変革せざるを得ない。民間主導でできること、そこからやっっていこうというまちづくりです。

「ないものねだりの消費者のためのまちづくり」から今の時代は「あるものみっけの当事者たちによるまちづくり」ということに代わってきています。地方創生と言いますが、持続可能であることが大事です。消費されない誇りあるまちを見つけ出す「シビックプライド」が大事。そのためには共感が必要です。誰かがビジョンを語っていいんです。それに対して共感する人が集まります。今は絵に描いた餅をおいしそうに描ける人が勝つんです。絵に描いた餅はビジョンです。今日のこの状況をみたらこれに共感する人が現れます。霧島の可能性大いにあると思います。



戦略会議の目的について 講師：須部 貴之 氏

まだ霧島市が生まれてから15年しかたっていない。15年たった今だからこそ霧島市が一丸となって、民間も行政も関係なくまちを作っていくというスタートラインに立ったんじゃないかなと思いました。今ある資源、みなさんが素通りしているかもしれないまちの風景を活用して、地域社会の問題をみんなで一緒に解決していくということ。民間が主導で行政と一緒にやる。そのスタートがこの会議です。まちづくりの登場人物はここにいるみなさんです。委員の皆さんは代表であって、ここにいる行政職員の方も民間の方も関係なく、皆さんで作り上げていくというものです。



第2回戦略会議「SDGsを学び、霧島の強みと弱みを知る」

SDGs（持続可能な地域の開発目標）を知り、世界と繋がることで見える霧島の強みや弱みを分析しました。そして霧島からできるプロジェクトの種を生みました。

自分と世界のつながりを知る SDGsの本質の理解 講師：大岩根 尚 氏

「風が吹けば桶屋が儲かる」風が吹くと砂ぼこりが舞って、失明する人が出て、三味線引きが増えて、材料になる猫が減って、食べられるネズミが増えて、桶がかじられて桶屋が儲かる。そういう世の中つながっているというお話です。

いろんな問題がつながりあっているのが今の世界。例えば貧困の問題を解決したいと思っても、全てつながっているから貧困だけではダメなんです。だから全部を変える必要がある。世界を変えるためには自分が変わる、普段見ているものが変わる必要があったり、行動を変えないといけない。

まちづくりというとまちのことを変えようとするけど、その一員である自分も変わらないといけない。誰かを変えようとしても変わらない。人を変えるのは大変だけど自分なら変われます。地球規模のいろんな問題がありますが、自分もその上に乗っかっているんだから自分が変わる必要があるし、みんなで変わる必要があるし、霧島をよくするためには皆で、仲間として変わっていこうということが必要です。



参加者や講師の感想



白水委員

国分隼人は人が増え、他の地域は減っている状況は良くはないけどすごく悪いわけではない。お金を稼いで経済を循環させていく役割は国分隼人。自然、観光の役割が中山間地域。そういった役割分担が必要なんじゃないかなと思いました。



野崎講師

こんなにバランス良く、経済・社会・環境の評価をするまち（霧島）はとても珍しいと思って、自然も都会もあるって唯一無二って言うっていいポテンシャルがあり、役割分担ができる。これが霧島の強みなんだろうなと思いました。



須部講師

自分一人だけでやるのは大変だけど、みんなが1の力でやることで全体が動くということが体験できたのが良かった。また自分の少しのアクションが全体を変えることができるということを皆さんと共有できたことが嬉しかったです。

第3回戦略会議「自身のプロジェクトを分析し、民間と行政の役割を知ろう」

委員自身のプロジェクトについてSWOT分析を行い、委員同士の対話を通じてプロジェクトの深堀りやプロジェクト同士が重なる部分について議論しました。また公民連携のまちづくりを進めていくための第一歩として、民間と行政がフラットに議論する場を設け、行政としての役割について考える場となりました。

委員の意見



松本委員

まちの色って何が違うかという、動かしている人が違って当事者意識や推進力を持ってやっている人たちの色が違うんだなということに気づきました。タスクフォース（行政）の人達が何をしているのか私たちも知りたいし、役割分担とか自分たちの関係性のポジショニングが見えると一丸となっていけると思います。



奥野委員

まちなかは昼間に楽しめる要素が少ない感じがして。私は散歩したくなるまちが好きなんですけど、霧島市は昼間散歩しようというコンテンツがないような気がして、改めて昼間出たくなるようなポップアップが出せるところが増えれば昼間のにぎわいも出てくるんじゃないか。



大西委員

新しいことをしようとしている人にも否定しないというか、受け入れてくれる街になっていけばいいなと思ってます。あまりに理想的すぎですけど、受け入れる体質、新しいことをする人を応援するまちになればいいなと思います。



有村委員

この前のストリートテラスもすごくよかったし。ああいうのがどんどん増えれば、まだまだいろんな可能性がある。今あるものを自分たちが楽しんでそれが伝わればいいんじゃないかなと思います。結果として人が増える。でもそこを目標にすると辛いので。自分たちの場所で暮らしを楽しむ。



第4回戦略会議「これからの霧島を一緒につくろう」

これまで実施してきた戦略会議で出た意見を基に、霧島リノベーションまちづくり推進ガイドライン（案）を発表・配信しました。また委員8名によるプロジェクトの発表とともに、トークセッションにより本市の可能性やこれからの街の未来などについて深掘りを行い、民間主導・公民連携のまちづくりの機運を高めました。

委員トークセッション（1 / 5）

戦略会議に参加して気付いたこと、半年前に参加していただいたんですがその半年間で気づいたこととか生まれたもの、自分に変化があったとかお聞きしたいと思います。



須部講師

自分に変化の兆しが生まれたものは、自分自身がDIYを中心にしながら古民家再生を10か月間やっているのもあって、霧島は空き家がどんどん増えていくので、国分隼人を拠点にできるDIYチームみたいな、工具をシェアしたり、ここの空き家再生やるぞってときにみんなで楽しくやるみたいなチームをこの中心街を拠点に霧島中から集められたら面白いし、DIYの空き家再生以外の効果もまちづくり的な効果も生まれるので面白いなと思ってます。



白水委員

ちなみに白水さん、この半年楽しかったとコメントいただいたんですが、どんなところが楽しかったですか。可能性を感じたところとか。

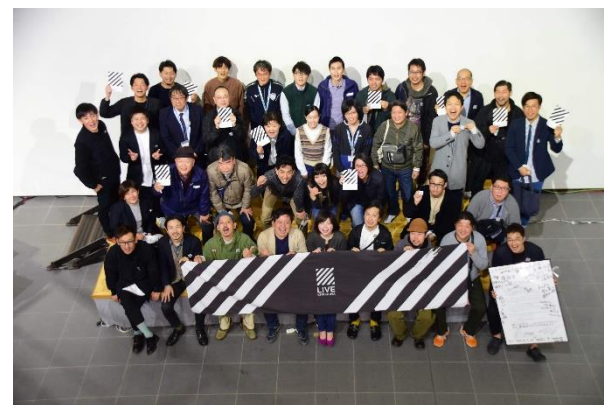


須部講師

今グラレコしてくれている彼女も、戦略会議の1回目でグラレコというものを知って、ググりながら家に帰って夜中に描いてっていうのが9月末だったんですけど、今では仕事で受けるまでになっているんですよ。昨日も大隅で頑張ってきているんですけど、そんな感じで自分たちだけでなくそこから派生して生活がいい方向に変わっていった人たちが他にもいて、ワクワク感みたいなものを感じました。



白水委員



第4回戦略会議「これからの霧島を一緒につくろう」

委員トークセッション（2 / 5）



では違う方に。日永田さんお願いします。10年以上霧島にいらっしゃって、会社がこちらで家も建てていると思うんですけど、ペチャクチャナイトとか人が集まる場を作られていますか改めて会議参加してどうですか。



須部講師

一般の方も参加した第1回戦略会議は思っていた以上に人が集まって盛り上がったので、霧島に面白い人がいっぱいいるし、これからワクワクすることをやりたいって人が多いということに改めて気づきました。10年前はこういう人達が見えていなかった。会議の中で、霧島市のイベントをきっかけに人が見えるようになってきたというのがあって、こういう新しい取り組みから新しい人が見えてきて、その人たち同士が繋がって新しいのが生まれているのがすごくよく分かって面白いなと思います。



日永田委員

霧島はユニークな人たちが集まっているんだなと思います。次の問いです。霧島の課題+aそれを活かせば強みになると思うんですね。それを感じている人が有村さんだと思ってお聞きします。100年以上続いている会社を引き継いで会社と住んでいる場所と長い間霧島にいらっしゃると思うんですが、そういうものも含めて霧島の課題はどこにあると考えていらっしゃいますか。



須部講師

そうですね。霧島の課題、例えば新しいこととか、これをやろうってなったときのサポート体制とかどうやったらいいのかわからないというのが一つあるのかなと思っていて、そういった意味でもこのメンバーが大事なんですね。皆いろんな旗を掲げているので、なにかやりたいことがあればその人のところに行けばいいやっという。今までそういう旗を挙げている人がいなかった。そういうのはすごくこのメンバーでやれてよかったなと思います。



有村委員

第4回戦略会議「これからの霧島を一緒につくろう」

委員トークセッション (3 / 5)



須部講師

小浜に本社移転してコミットするじゃないか、その辺の見えている世界ってどんな感じなんですか。霧島に可能性を感じてそこの場所の可能性を感じてらっしゃると思うんですけど。普通はあそこの場所に出づらと思うんですけど、そこにあえて出すっていう未来観は。

いろんな人に何で？ってよく聞かれるんですけど、いろんな理由がある中で最終的にはその場所が好きなんですね。移住もするんですけど、働くこと、住むこと、自分たちが楽しいと思うことが結果的に人を呼び込むことになっているし、結果的にいろんな協力者が増えているので、自分が楽しく暮らせる場所になるっていう確信があるのでそこが大きい。



有村委員



須部講師

同じ問いをLOVE&BASICということで山の中でイベントやったり、都市部というより自然を活用して場を作っている徳永さんにお聞きします。課題というか、もったいないなと思うことをお願いします。

大自然があって、市街地には誘致企業もあるんですけど、自然と社会というか職場の距離が結構離れているイメージがあります。溝辺に関しては雇用が少なくなくて国分に行って従事している方も多いので、地方でも雇用が生まれればもっと自然とか観光の近さがでてくるんじゃないかな。あとITとかクリエイティブとかそういうのも使っていけば、霧島の強みになるんじゃないかなと思います。



徳永委員



須部講師

いわゆるワーケーションと言われるようなところも通じてきて、人の暮らし方とかにも導かれて、まちの人も楽しんだりという感じですね。続いての問いは、霧島の役割分担について民間と行政、その他の団体の役割を持っていきましょうということでした。もっとこうだったらいいのという視点で、農業の観点から増田さんに。どうでしょう。



第4回戦略会議「これからの霧島を一緒につくろう」

委員トークセッション（4／5）

公民館には加工施設もあるんですけど、管轄が教育委員会になっていてそういった意味では農作物の加工とかでは使いにくいとか、なにかを起こそうとするとお試しできなかったり。20年前の決まりが残ってたりとかあるので、そういった意味ですごく柔軟な対応をしてくれたらなと思います。特に農業はUターンとか移住してやってくれる方が多いのでそういう方に対してもっと柔軟な対応をしてもらおうと地域とも溶け込みやすいでしょうし、住みやすくなると思うんです。



増田委員

農業関係だと担当課が違ったり結構大変だと思うんですね。そこら辺をうまく民間と行政となつて問題解決、よりよい暮らしをつくるためにタッグ組めるといいですね。では、同じ問いを松本さんに。切り口として、現在IT企業として独立して、外とあんまり接しない職種だと思うんですけど、実際コワーキングやまちづくりもされている。中にいたからこそ、外に出て霧島の役割分担がもっとこうだったりとか、見えてる視点があったら教えてください。



須部講師

マンションの一室で独立したみたいなのところがあります。コワーキングを作って気づいたことは、なんでこんなに民間と行政がつながってないんだろうと思いました。知らない世界だったので意思疎通が図れているのかなと勝手に思っていました。でもチャンスだなと思いました。私がそこをつなげたらもっと面白いことできると思って。だからこそ民間と行政、教育機関、商工団体とかいろいろあると思うので、いろんな情報を共有できるよう皆で一緒にやろうよって言える環境が作れたらいいと思います。



松本委員

行政と民間が業務ではなく、コワーキングとか人が集まる場所でふらつと会話をしてフランクな関係づくりができる場が必要ですよね。続いて最後の問いになりますけど、奥野さんに。フリーで転々と出回しているというか、移動できるからこそ未来の霧島の可能性を感じると思うんですが、そこについてどうでしょうか。



須部講師

第4回戦略会議「これからの霧島を一緒につくろう」

委員トークセッション（5／5）

昼間出店してても散歩したくなるまちに霧島が発展していけばいいなと思っていて。昨日リットアップというイベントに出店したんですけど、昼間の街並みって寂しくて昼間やってるお店あんまりなくて。イベントだけしか行くところがないので、魅力的な店がもっと点々としていけばまちが楽しくなるんじゃないかなと思います。僕も移動販売という職種柄、まちの中にポップアップで楽しめるコンテンツになればと思っています。リノベーションまちづくりを皮切りにいろんな楽しいお店ができてきたり、まちがにぎわっていいなと期待しています。



奥野委員

奥野さんみたいな人が増えれば、霧島は自然も多いし活用できますよね。景色にもなるし、次を育てていく仕組みを行政と一緒にしてくれるかもしれませんね。最後大西さんに。リノベーションまちづくりは多様性と人のつながりから未来の可能性をつなぎあわせるというところがあると思うんですが、そういうところも含めてどこに期待しているとか、どんなことがやれそうだとかコメントいただければと思います。



須部講師

一人でやってきたのでこうやって仲間と一緒に取り組めるというのがありがたいなと思います。インディアンの言葉でしたかね、早く行きたければ一人で駆け、遠くに行きたければみんなで行けというのがあって。その通りだなと思っていて、良い経験をさせていただいて、これからも協力してきたいなと思っています。霧島への期待はずっとクリエイティブな人たちが増えるまちにしたいなと思っていて、それがライブに集約されていると思うんです。新しい理想のライフスタイルが送れて、クリエイティブな人が集まってチャレンジもしくてアートや音楽が溢れるまち、とんでもないと思うんですよ。そりゃ地価もあがるだろうと。どこまでできるかというのは、ほんとに私たちだけでなく行政、一般の方もだと思うんですがなるべく前のめりな人たちが、自分からもどんどん提案するみたいな人たちが増えて刺激しあえるようなまちになれば面白いなと思います。



大西委員

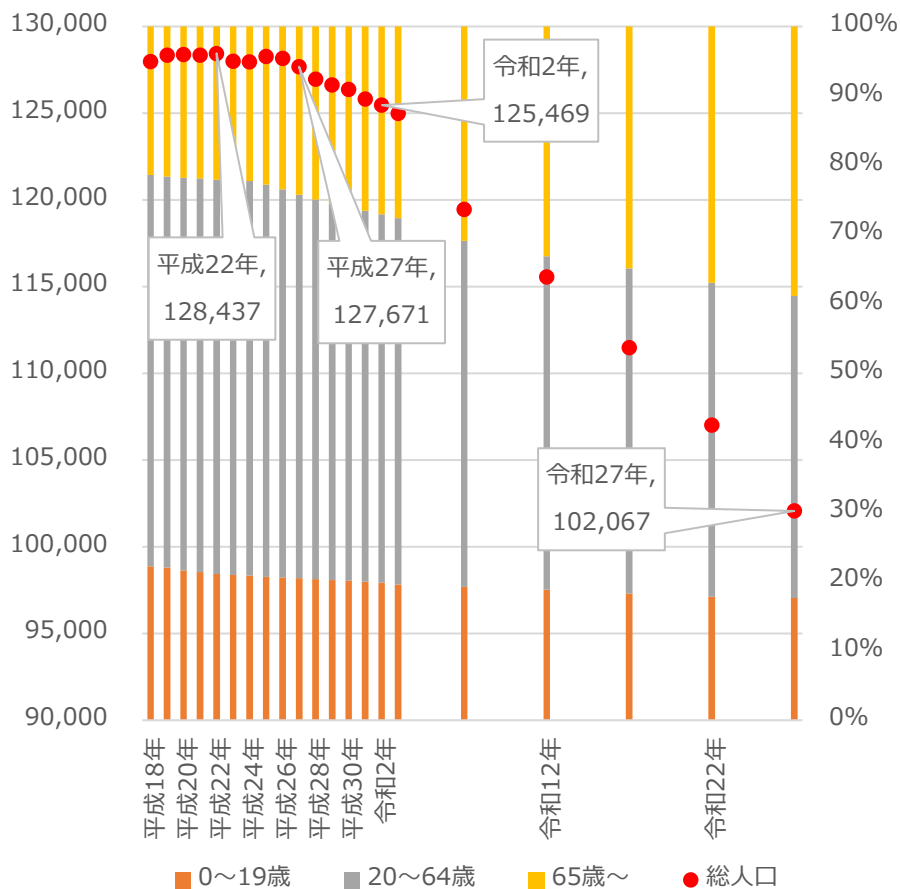


○霧島の現状（人口推移など）

- ①霧島市の人口推移
- ②霧島市の人口動態（自然動態+社会動態）
- ③年代別人口推移（各地区ごと）
- ④若者・女性の創業への関心興味

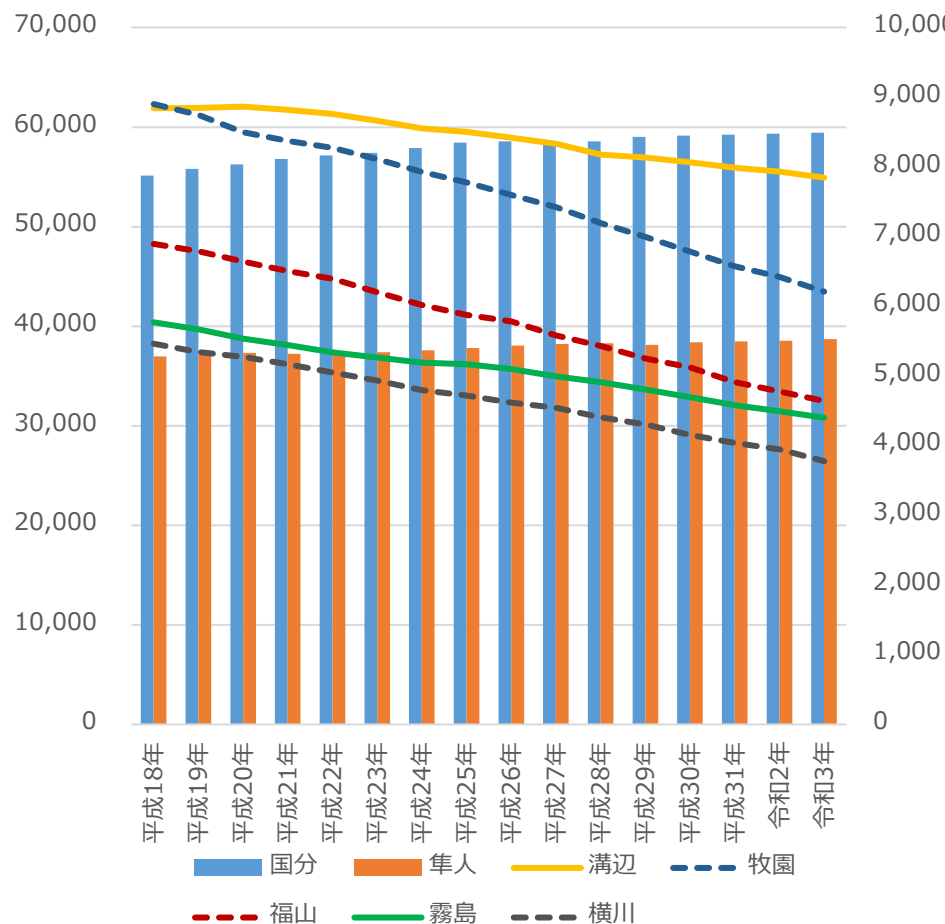
参考資料 霧島市の人口推移

霧島市人口及び年代別人口割合



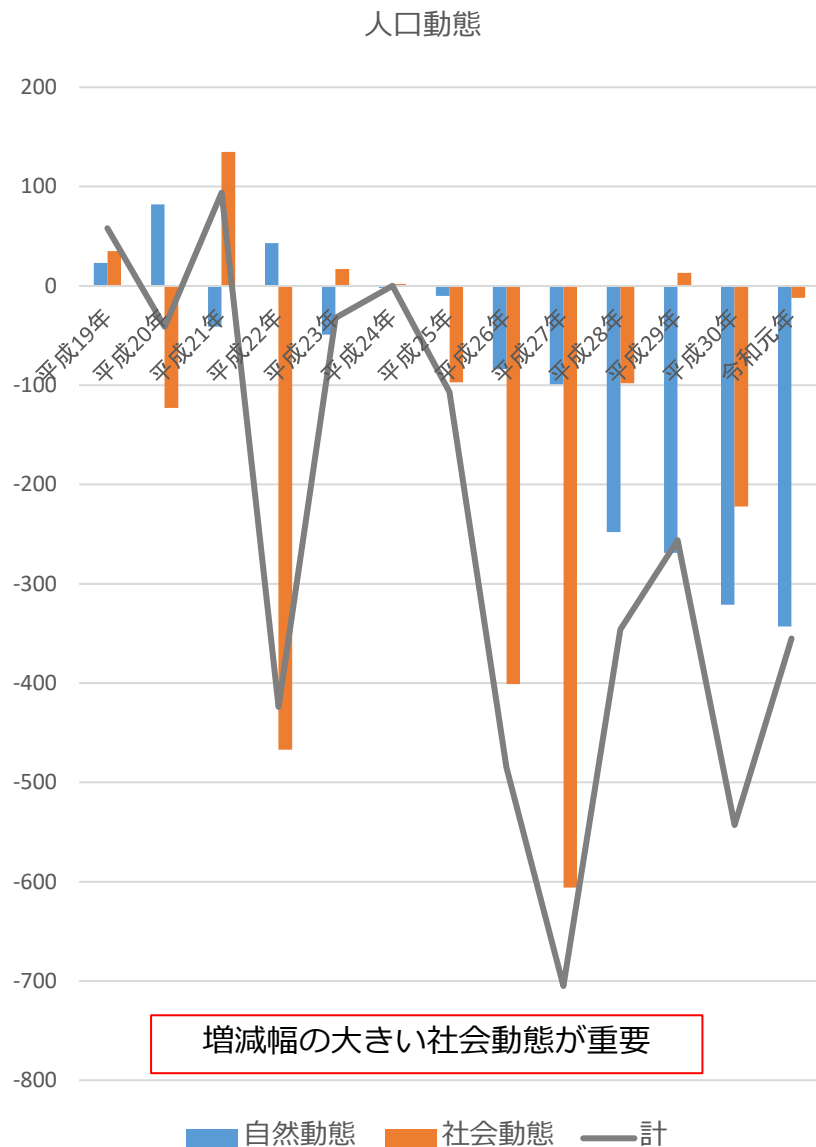
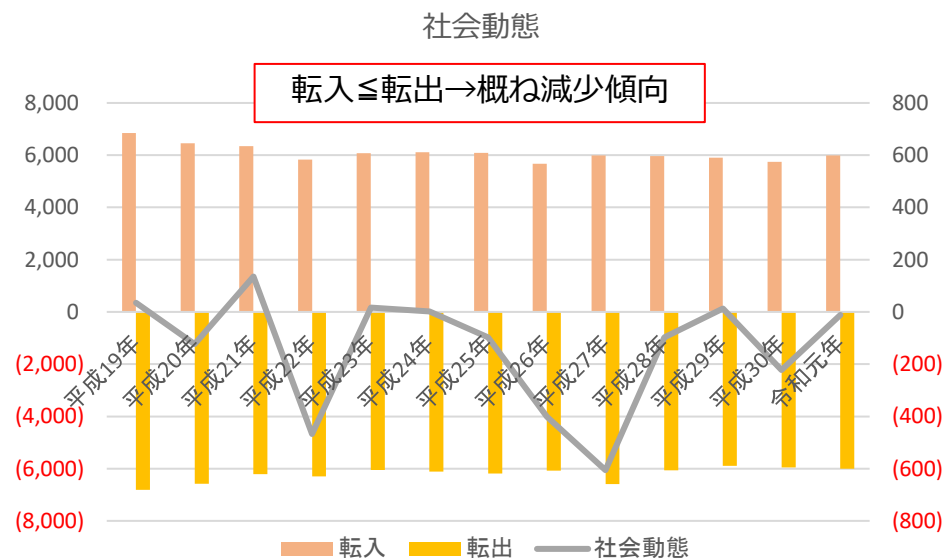
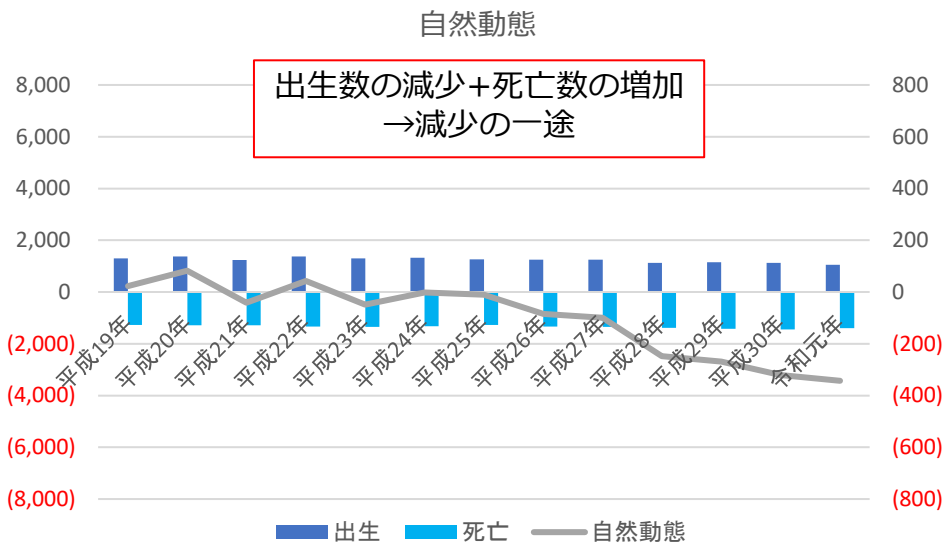
2000年（平成12年）の127,912人をピークに人口減少が続き、2045年には102,067人（20.2%減）となる（推計）。

霧島市地区別人口

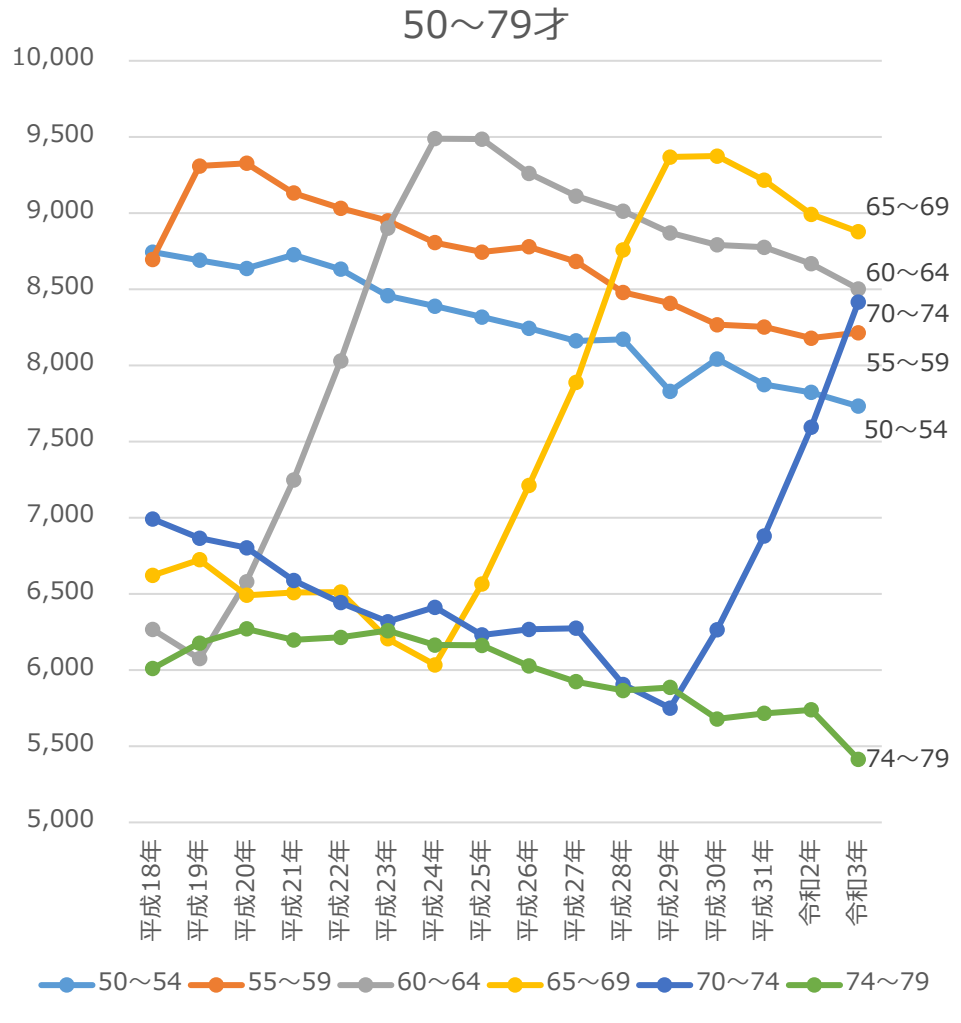
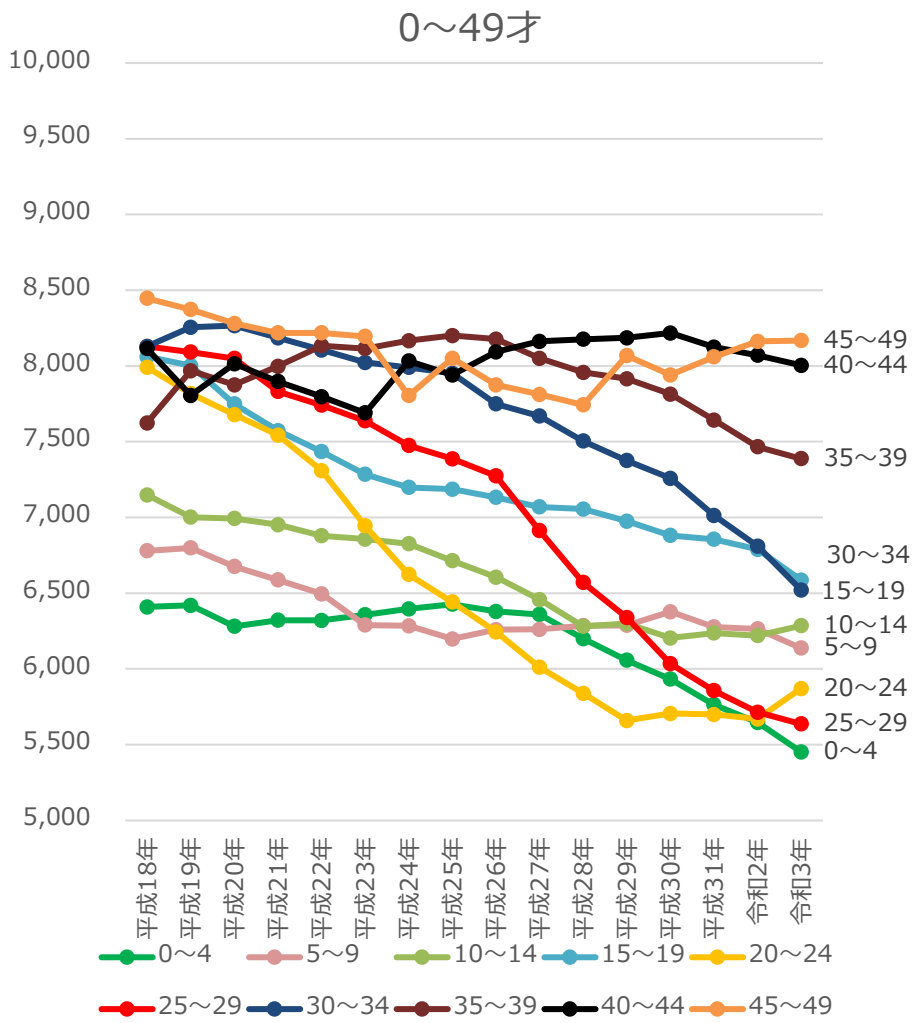


市街地（国分・隼人地区）は人口増加。一方、中山間地域（溝辺・霧島・牧園・福山・横川地区）は人口減少が進むなど人口分布の二極化が顕著に。

参考資料 霧島市の人口動態（自然動態+社会動態）



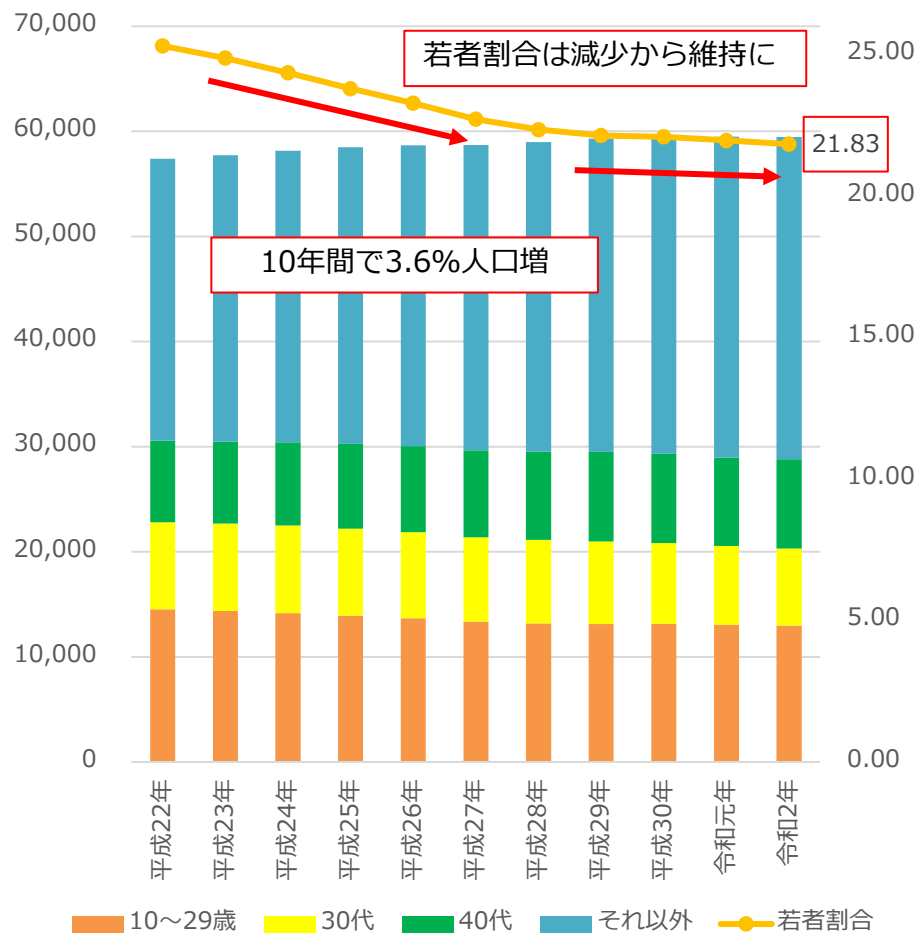
参考資料 年代別人口推移（霧島市）



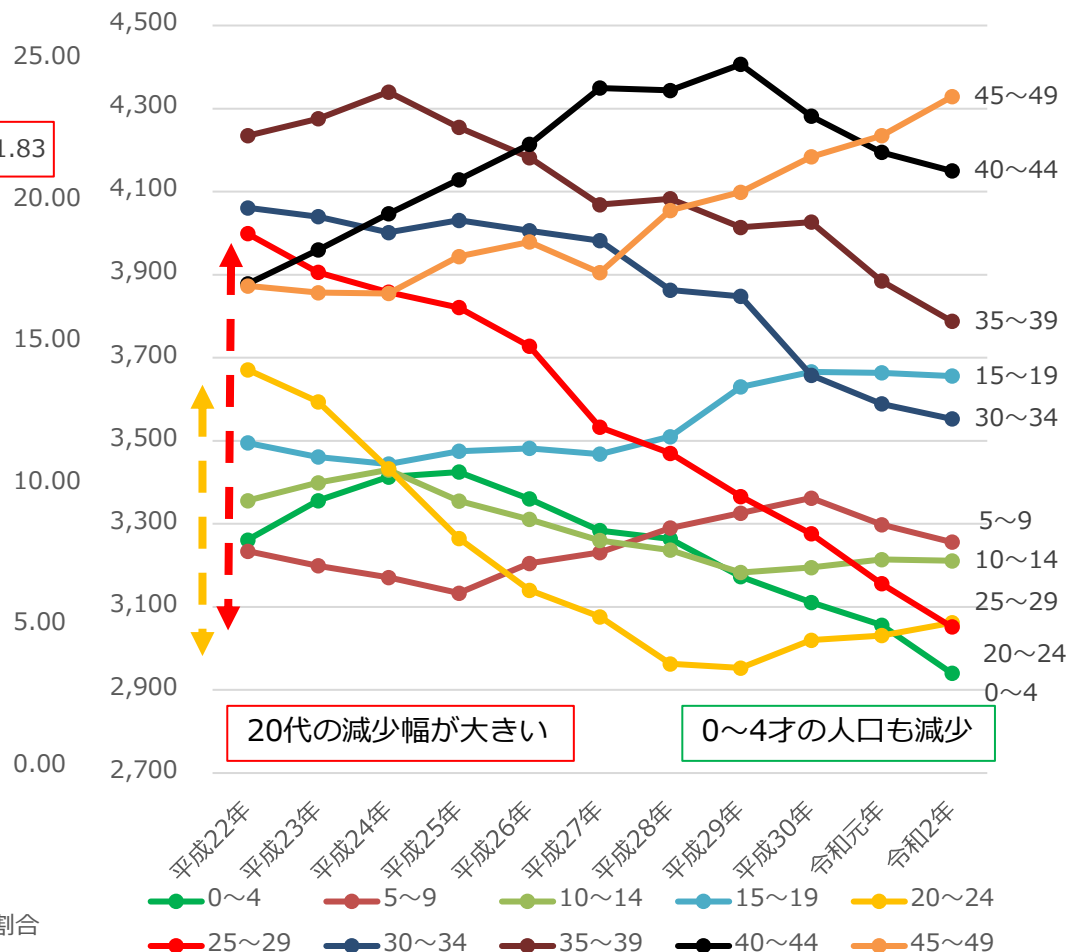
合併以降、30代以下の人口減少が顕著であり、特に全年代の中で20代人口の下げ幅が一番大きく、近年では20代人口が一番少なくなっている。50代以上については、団塊の世代が人口ピークを持つものの、各年代ともに減少傾向である。

参考資料 地区別人口推移（国分）

国分地区若者（10・20代）人口



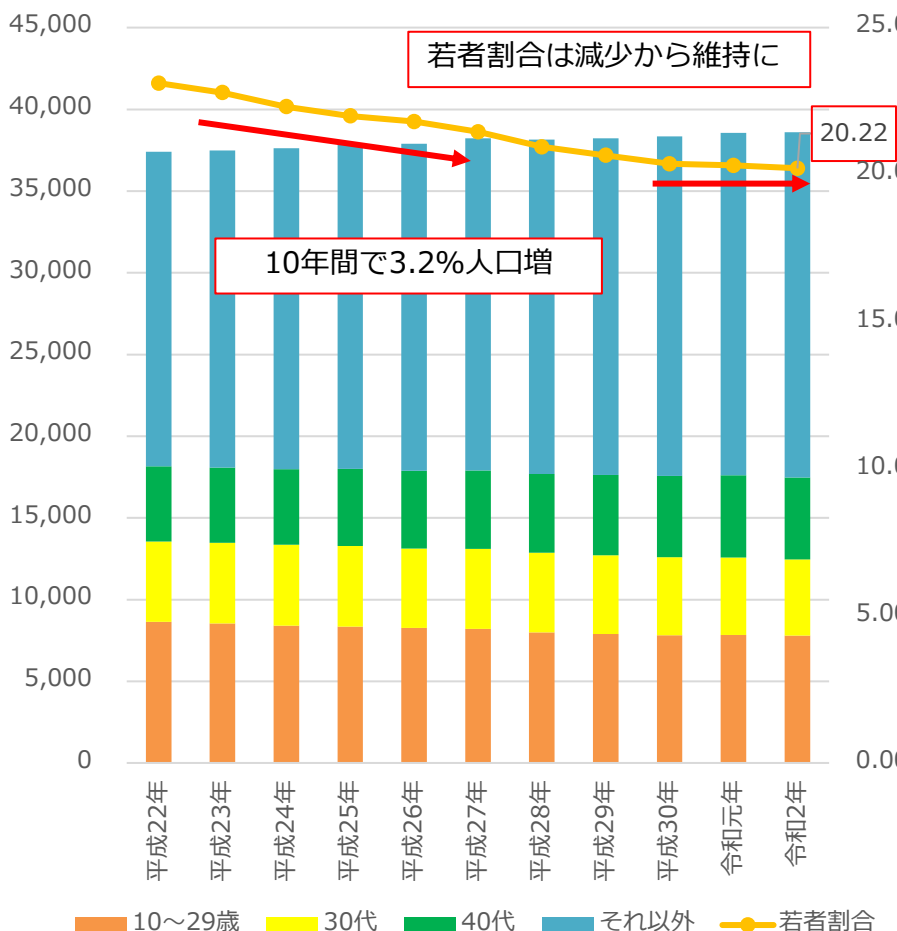
国分地区（年代別人口推移）



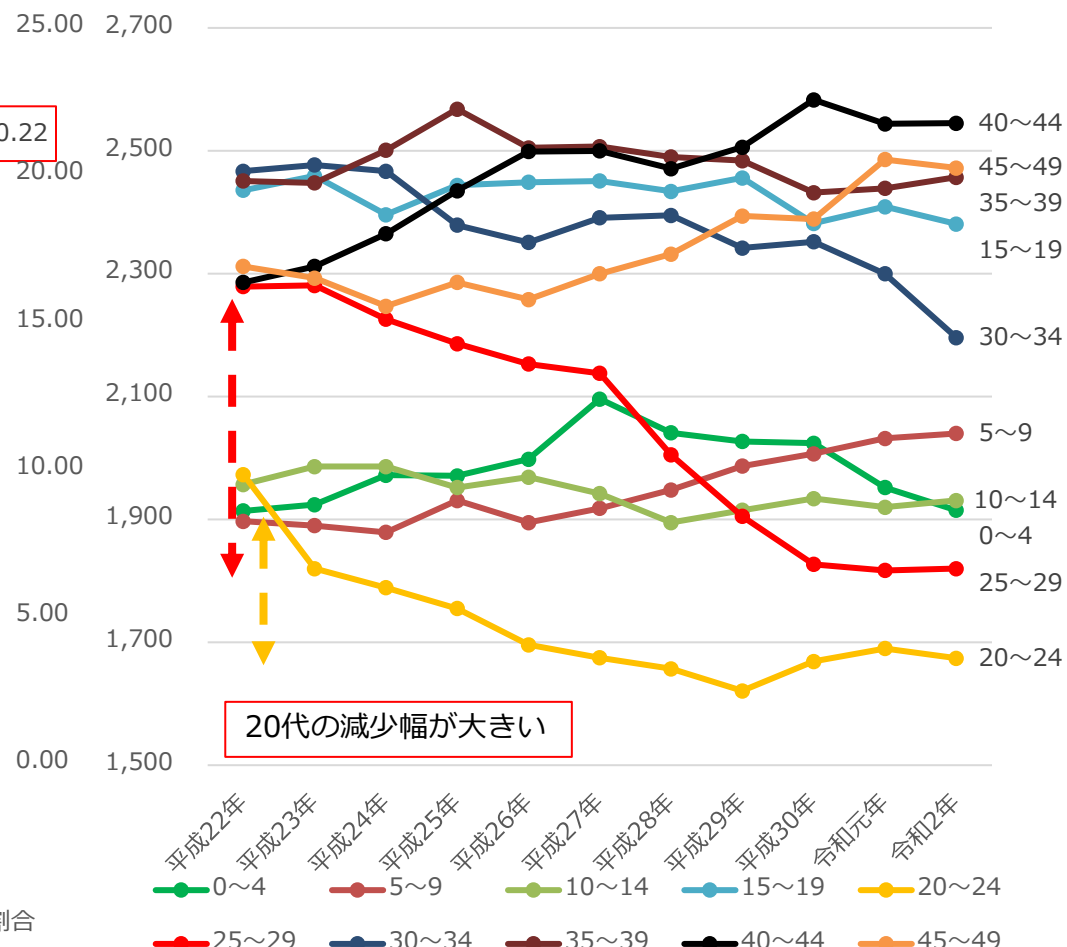
国分地区は人口が微増傾向。若者割合は21.83%と各地区の中で一番高い。しかし25～29才の人口の減少幅が大きく、35～39才、0～4才の人口も減少している。人口が一番少ない年代は20代、一番多い年代は40代。

参考資料 地区別人口推移（隼人）

隼人地区若者（10・20代）人口



隼人地区（年代別人口推移）

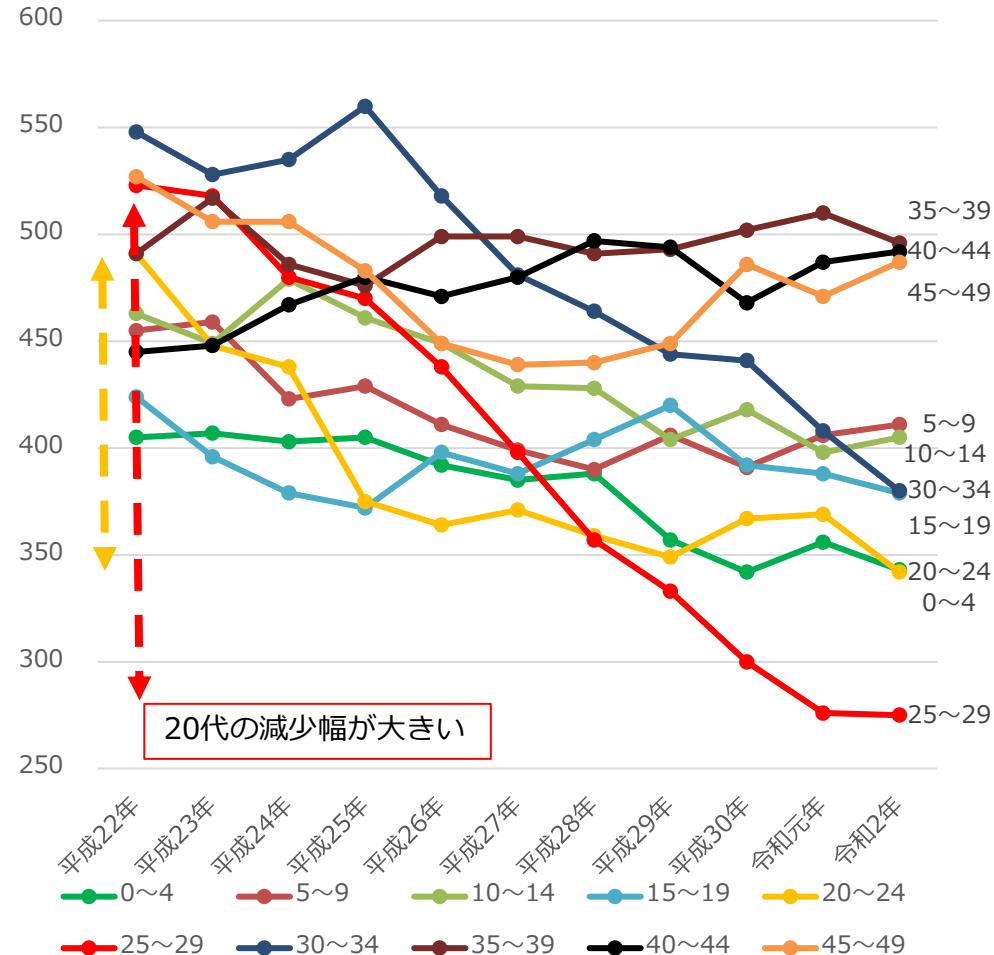
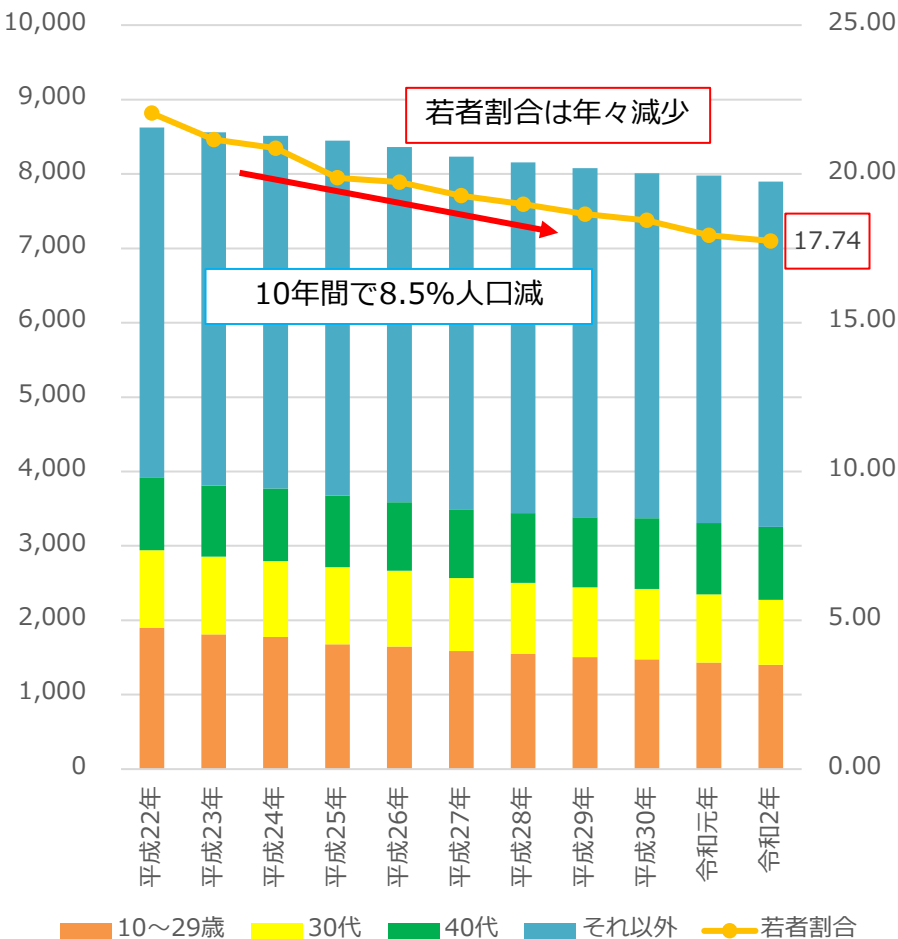


隼人地区は人口が微増。若者割合は20.22%と国分に次いで2番目の高さ。15～19才の人口が比較的多く、0～9才の人口が増えているのが特徴。人口が一番少ない年代は20代、一番多い年代は40代。

参考資料 地区別人口推移（溝辺）

溝辺地区若者（10・20代）人口

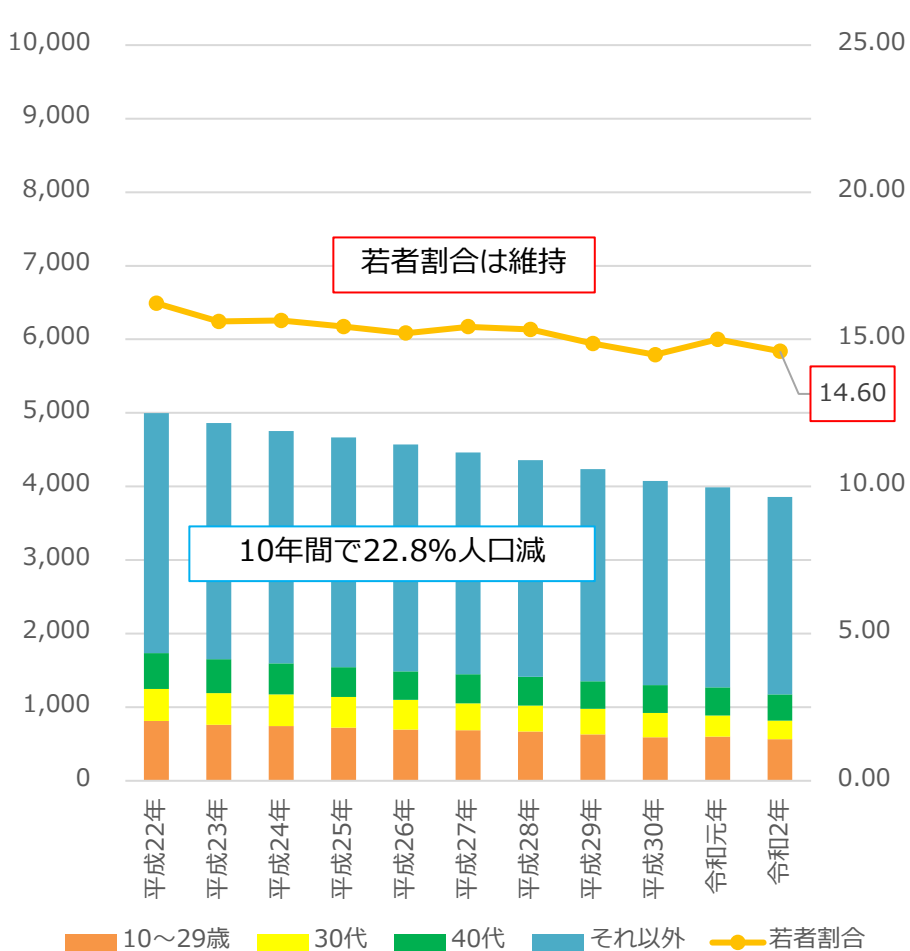
溝辺地区（年代別人口推移）



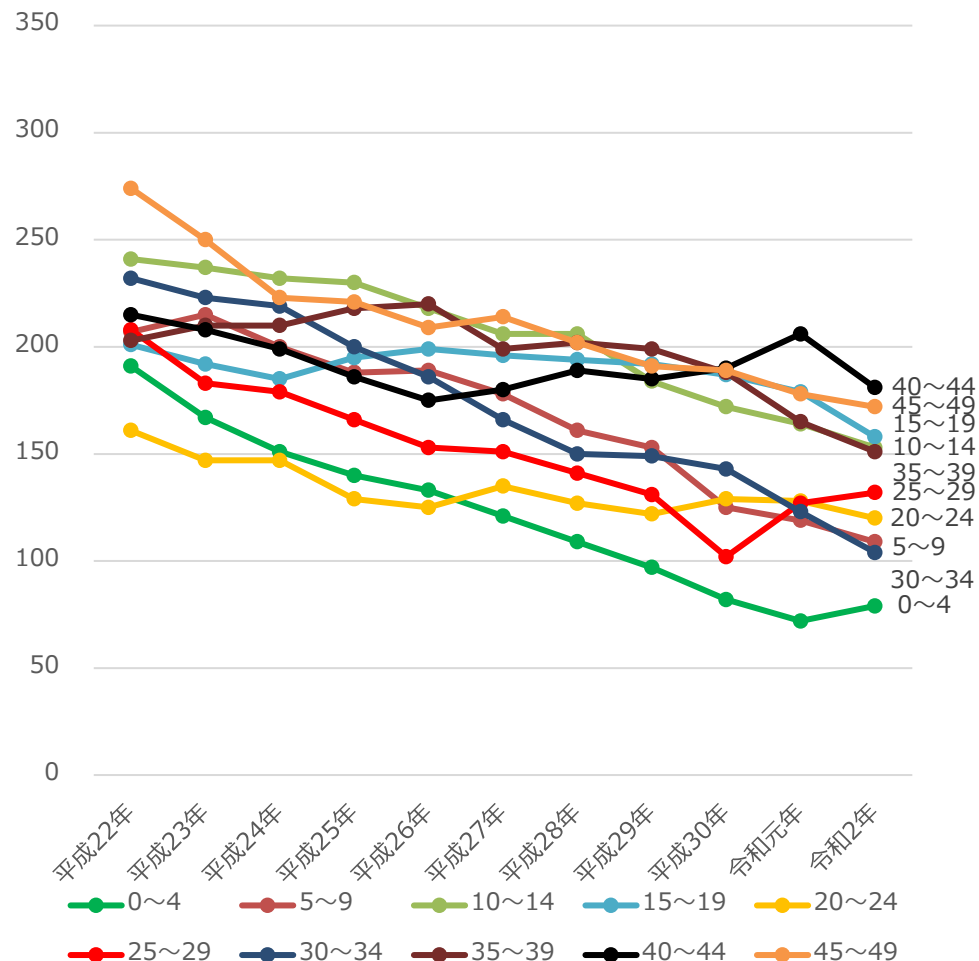
溝辺は人口減少が続く。特に25~29才の人口減少が大きく、30~34才も急激に減少している。一方、35~39才は人口維持。人口が一番少ない年代は20代、一番多い年代は40代。

参考資料 地区別人口推移（横川）

横川地区若者（10・20代）人口



横川地区（年齢別人口推移）

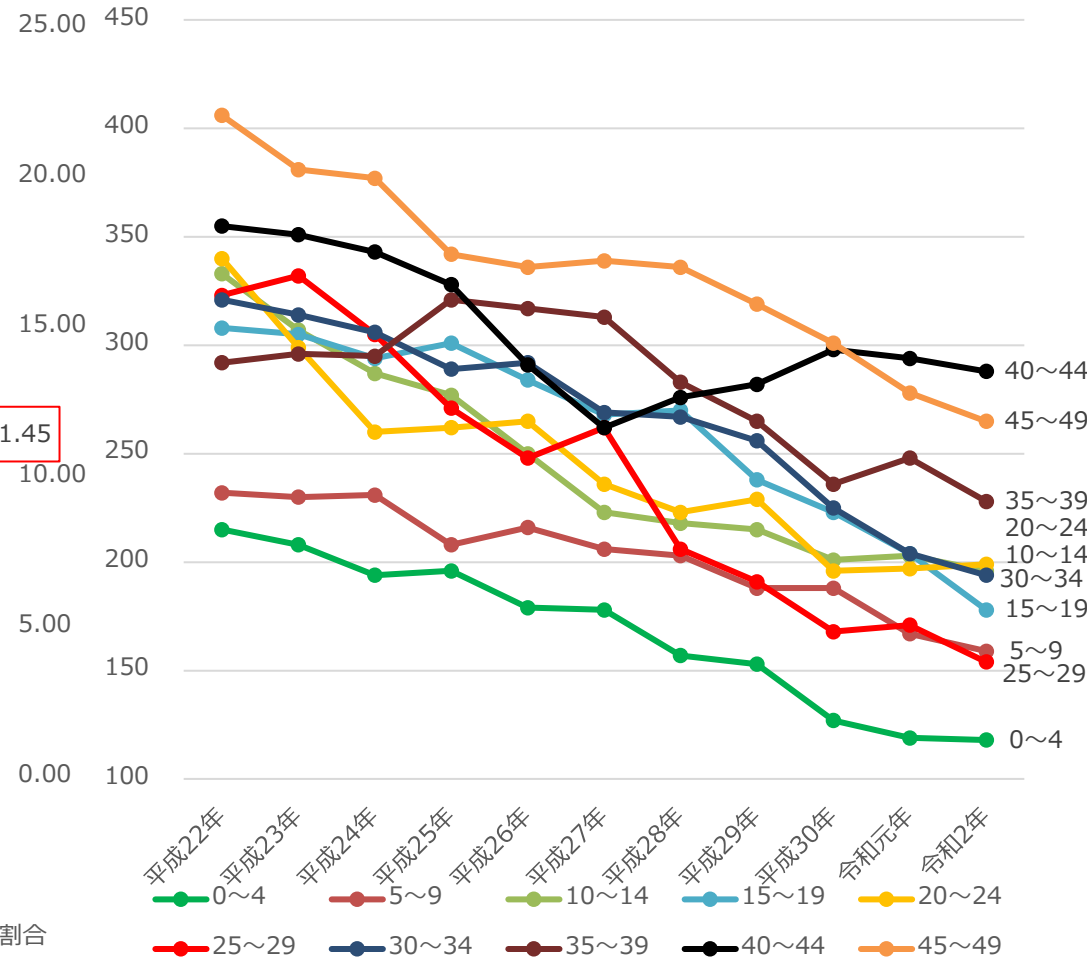
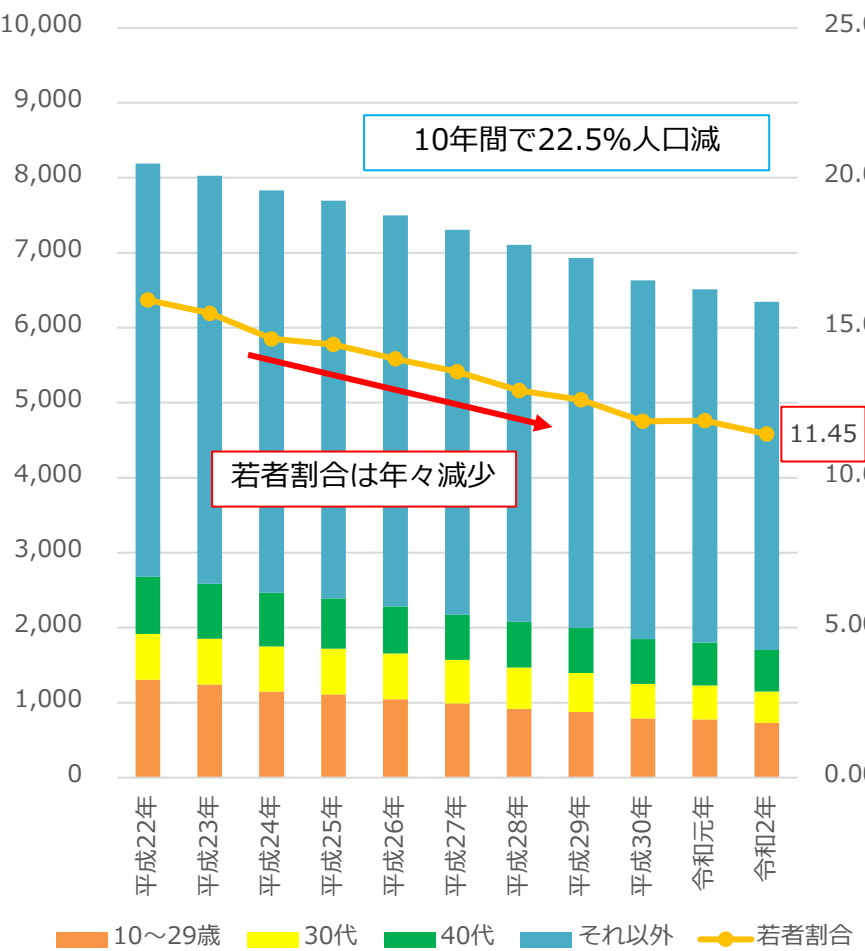


横川は急激な人口減少が続く。一方、若者割合は各地区で唯一維持しており（14.60%）、25～29才、0～4才の人口も各地区で唯一人口増に転じている。20代、30代よりも10代の方が人口が多いのが特徴。人口が一番少ない年代は0～9才、一番多い年代は40代。

参考資料 地区別人口推移（牧園）

牧園地区若者（10・20代）人口

牧園地区（年代別人口推移）

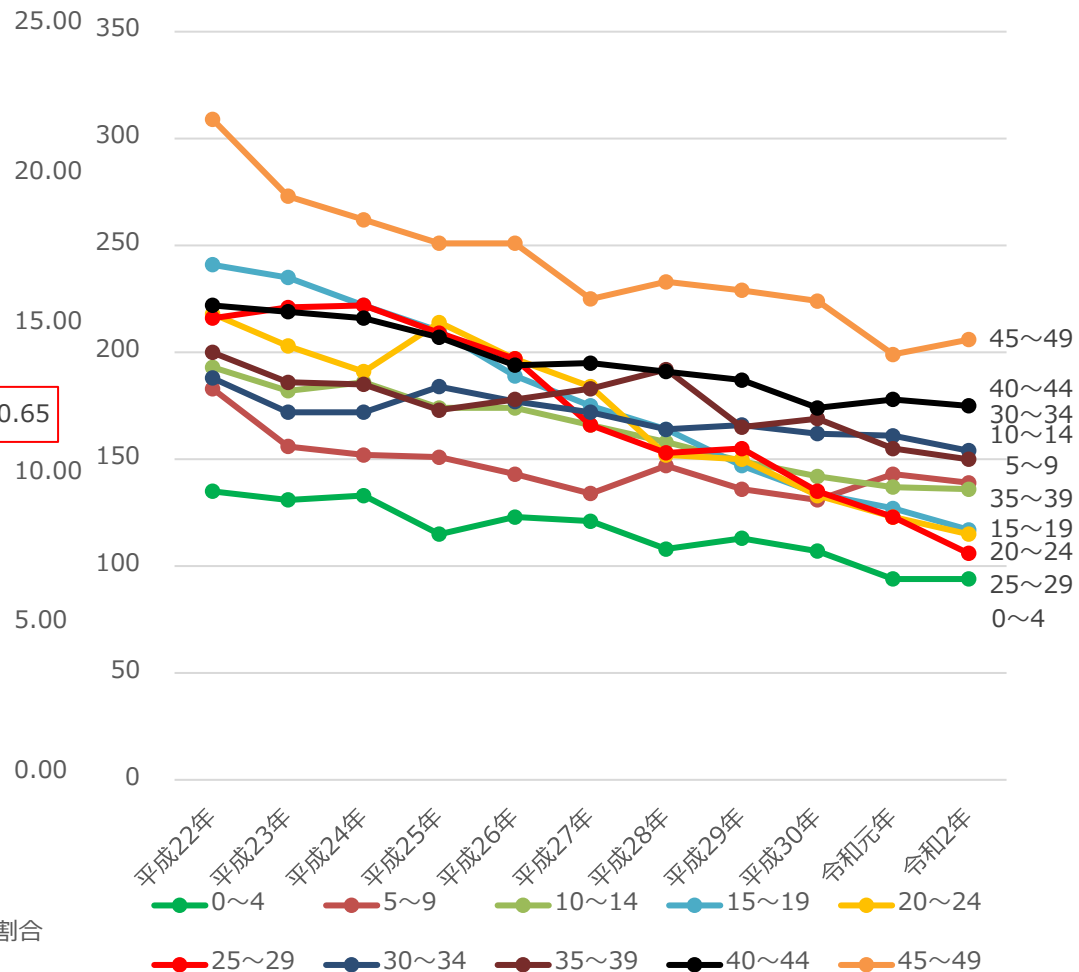
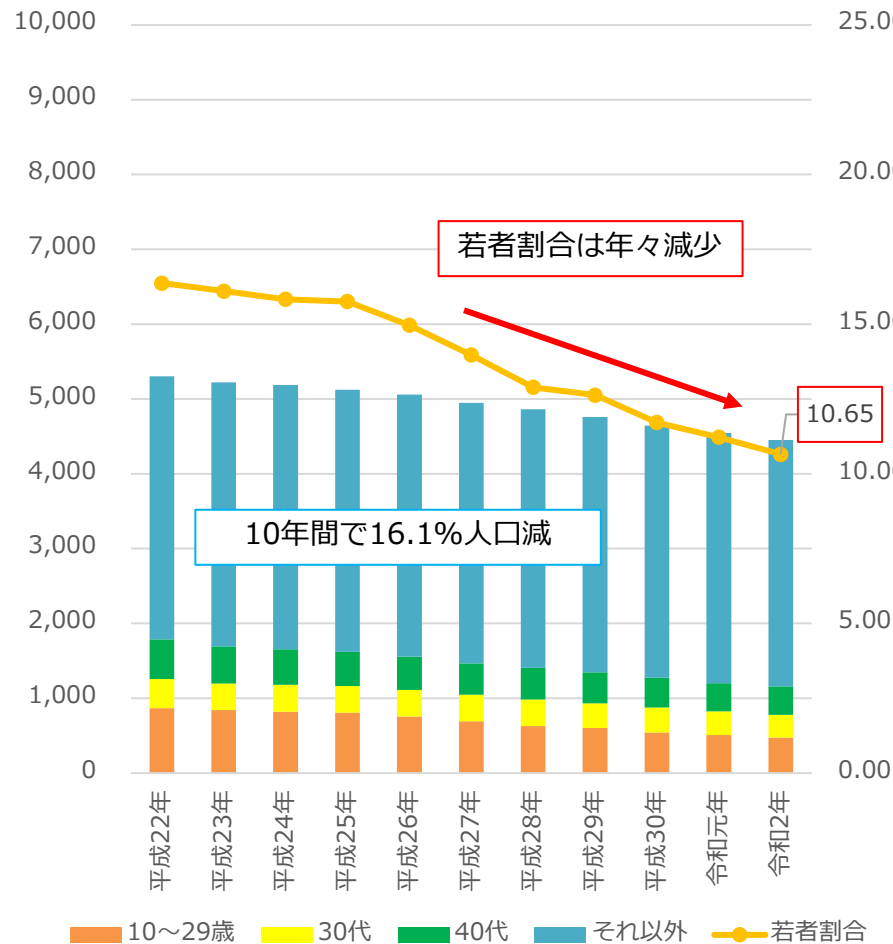


牧園は急激な人口減少が続き、若者割合も減少している。0~49才は全年代ともに人口が減少している。人口が一番少ない年代は0~9才、一番多い年代は40代。

参考資料 地区別人口推移（牧園）

霧島地区若者（10・20代）人口

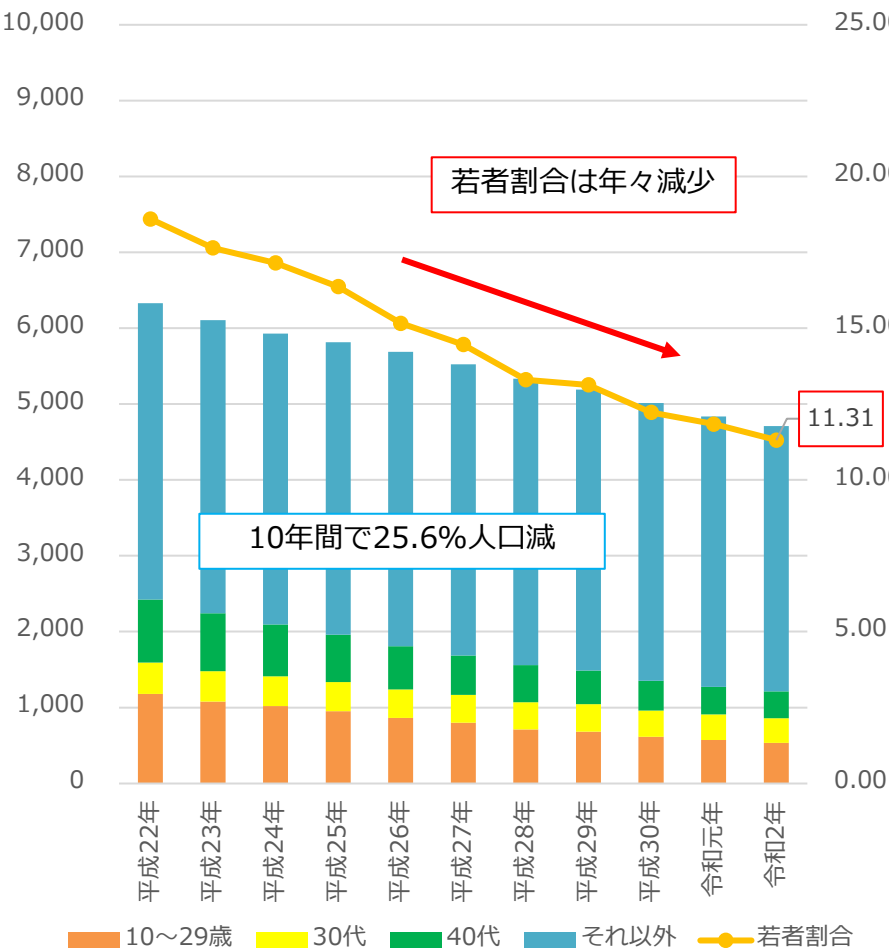
霧島地区（年代別人口推移）



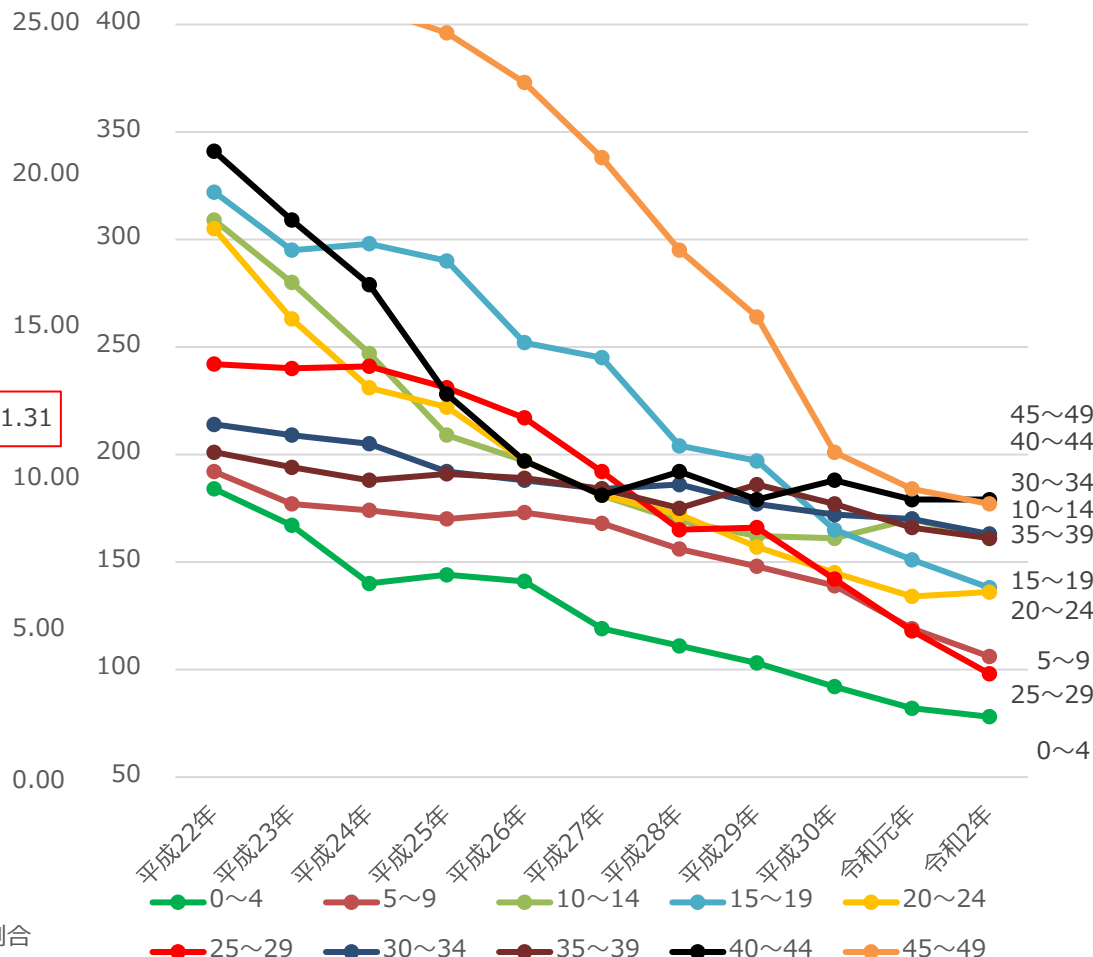
霧島は人口減少が続く。15～29才の人口減少が著しく、若者割合は10.65%と各地区で一番低い。人口が一番少ない年代は20代、一番多い年代は40代。

参考資料 地区別人口推移（福山）

福山地区若者（10・20代）人口



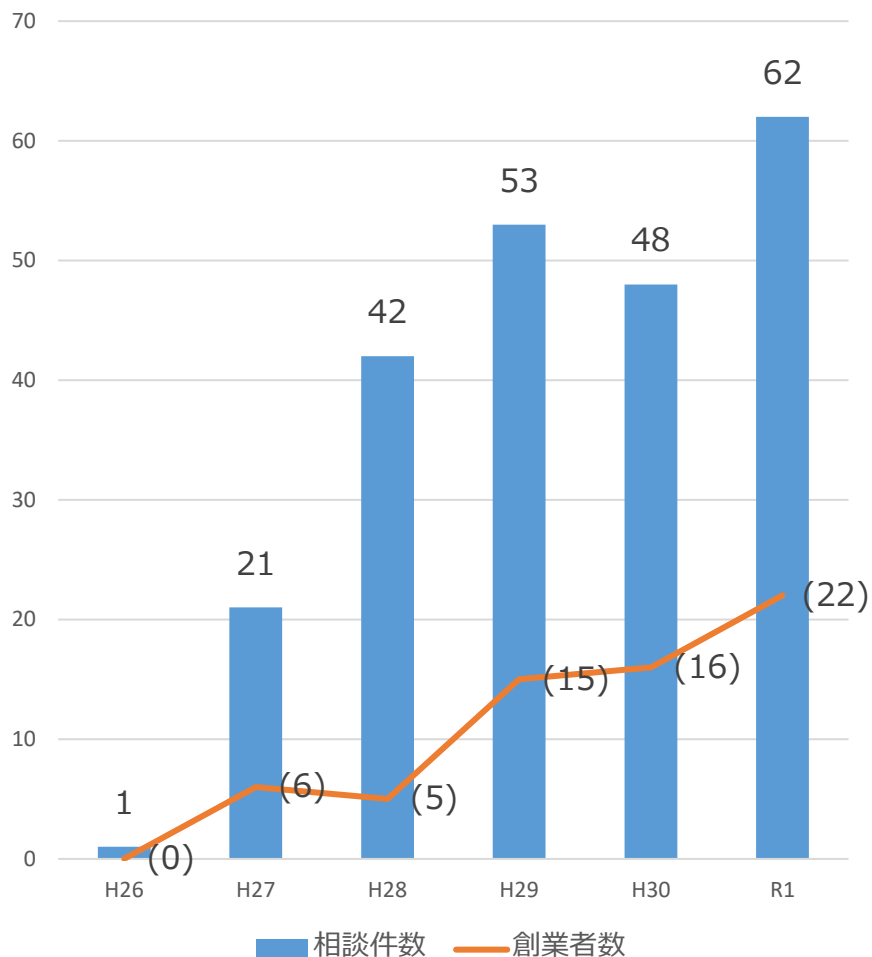
福山地区（年代別人口推移）



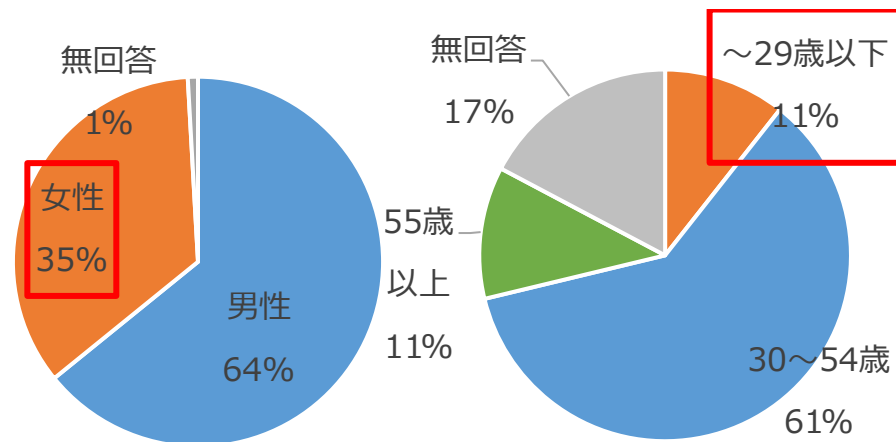
福山は急激な人口減少が続き、各地区の中で減少率が最も大きい。若者の割合も減少傾向で、15~29才の人口減少が著しい。人口が一番少ない年代は0~9才、一番多い年代は40代。

参考資料 若者・女性の創業への関心興味の醸成

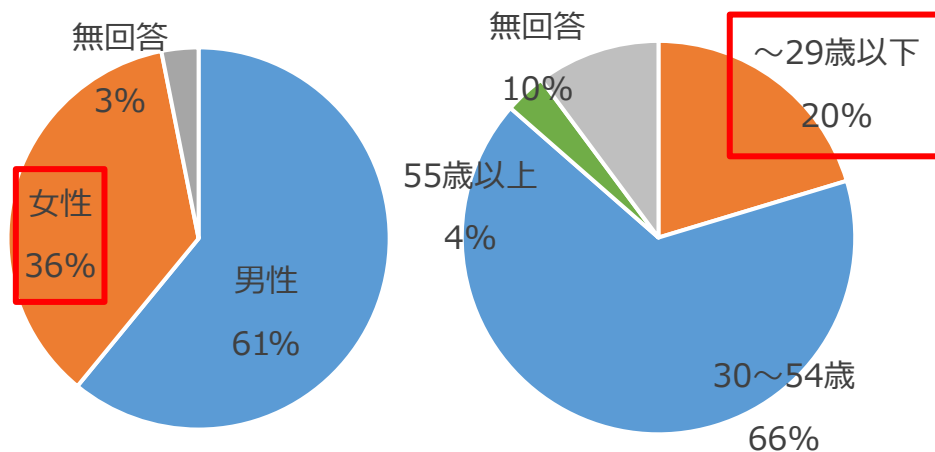
市創業支援センター（相談件数と創業者数）



創業相談（性別・年齢別）



創業者（性別・年齢別）



創業相談件数は**増加傾向**で、創業者数も**増えている**。しかし女性や若者の創業相談や創業は比較的**少ない**。一方若者については、創業者数が相対的に増える傾向にあり、創業への意欲が**高い**。